

科目名	キリスト教学 I		科目ナンバリング	L-GECHO-00. H	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G51000		30時間				
区分	一般教育科目	必修	担当者名	石垣 雅子			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>キリスト教主義学校に学ぶ者として、キリスト教の基本的知識と宗教全般についての必要な知識を得ることを第一の目的とする。この講義を通して、自分自身のあり方やこの社会について考え、自らの視野と価値観を広げることを目指したい。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの1・2・7に関連し、カリキュラムポリシーの1・2・7に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. キリスト教のみならず宗教全般について必要と思われる知識を得る。</p> <p>2. キリスト教的アプローチという視座を得る。</p> <p>3. 聖書が語るメッセージを受け取り、自分や他者について、あるいはこの社会や世界について考える。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	基本的知識、オリエンテーション		キリスト教、聖書、宗教について（カルト含む）							
第2回	弘前学院の歴史		弘前学院の創立とその歩み、キリスト教主義学校とは							
第3回	キリスト教史		キリスト教の歴史概説、ユダヤ教とイスラームとの関係性							
第4回	文学とキリスト教		聖書と文学の関連、文学部で学ぶことの意味							
第5回	旧約聖書概説		旧約聖書の成立、ユダヤ教との関連、39巻のダイジェスト説明							
第6回	旧約聖書を読んでみる（1）		創世記が伝えるもの							
第7回	旧約聖書を読んでみる（2）		出エジプト記とモーセの働き、十戒の意味							
第8回	旧約聖書を読んでみる（3）		イスラエル民族の歴史、サムエル記と列王記を中心に							
第9回	旧約聖書を読んでみる（4）		預言書、知恵文学、諸書							
第10回	新約聖書概説		新約聖書の成立、27巻のダイジェスト解説					レポート提出		
第11回	新約聖書を読んでみる（1）		イエス誕生物語、クリスマスの意味							
第12回	新約聖書を読んでみる（2）		イエスの語ったたとえ話、行った奇跡物語の意味							
第13回	新約聖書を読んでみる（3）		イエスの死と復活、十字架刑の物語るもの							
第14回	新約聖書を読んでみる（4）		パウロ書簡とパウロの働き、初代教会の成立							
第15回	まとめと確認		まとめ、ふりかえり、確認小テスト					レポート提出		
授業方法(併用可)	講義	ディスカッション	グループワーク	ペアワーク	クイズ、小テスト	授業中のノート取り				
評価方法及び評価基準	講義への参加と出席30%、レポート（二回）と小テスト50%、木曜日の礼拝出席20%で評価する。									
課題等	講義時に指示。特別礼拝の感想文を書いてもらう予定。									
事前事後学修	講義時に指示した次回の聖書テキストを読んでから参加すること。 事後学習としてやるべきものを指示した場合はそれに従うこと。人にもよるが、週あたり3時間程度要する。									
教材教科書参考書	『聖書 新共同訳』新共同訳で旧約聖書・新約聖書両方が入っているもの（入学時購入者は新共同訳である）。 毎回プリントを配布する予定。ノートとプリントをとじるファイルを各自用意すること。									
留意点	場合によっては一回程度オンデマンド講義を行う場合もある。 木曜日10：20からの礼拝に参加すること。この講義及び礼拝、また本学のキリスト教教育は信仰を強制するものではない。									

科目名	キリスト教学Ⅱ		科目ナンバリング	L-GECHO-01.H	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目コード	G51001		30時間				
区分	一般教育科目	必修	担当者名	石垣 雅子			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 現代を生きるわたしたちが、どのように他者との関係を築き共存していけば良いのか考えてみたい。自分と他者の望ましいあり方、またこの世界のあり方についてキリスト教的観点から考察する。旧約聖書の創世記と新約聖書の福音書を主なテキストとして用いる。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの1・2・7に関連し、カリキュラムポリシーの1・2・7に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. キリスト教という視点や価値観から自分と他者のあり方を考える。 2. 聖書の物語を通し、神と人間との関係の中に起きた出来事を考察する。 3. この世界の中において弱い立場に置かれている人たちが虐げられている人たちに対して自分のなすべきことは何か考える。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	方法論とオリエンテーション		基礎的知識の確認、どのようなことを目指すのかの説明							
第2回	創世記から考える (1)		イスラエル民族の苦難の歴史(天地創造 創世記1:1~2:4)							
第3回	創世記から考える (2)		アダムとエバの失敗と新しい可能性(楽園喪失 創世記2:4~3:7)							
第4回	創世記から考える (3)		人類最初の殺人事件(カインとアベル 創世記4:1~26)							
第5回	創世記から考える (4)		言葉の多様性と可能性(バベルの塔 創世記11:1~9)							
第6回	創世記から考える (5)		アブラハムの旅立ちと人生(アブラハム物語 創世記12:1~25:26)					レポート提出		
第7回	福音書から考える (1)		クリスマスの出来事が伝えるもの(イエス誕生物語 マタイ1:18~2:23 ルカ2:1~20)							
第8回	福音書から考える (2)		自立と自律(放蕩息子のたとえ ルカ15:11~32 99匹と1匹の羊 ルカ15:1~7)							
第9回	福音書から考える (3)		イエスの考えた社会福祉(ぶどう園の労働者のたとえ マタイ20:1~16)							
第10回	福音書から考える (4)		やらない言い訳は通用しない(タラントンのたとえ マタイ27:14~30)							
第11回	福音書から考える (5)		イエスと出会う(徴税人ザアカイ ルカ19:1~10)							
第12回	福音書から考える (6)		愛は無条件に(愛敵の教え ルカ6:27~36 善いサマリア人 ルカ10:25~37)							
第13回	福音書から考える (7)		病といやし(ベトザタの池 ヨハネ5:1~18 中風の人のいやし マルコ2:1~12)							
第14回	福音書から考える (8)		「因果応報」ではない考え方(盲人をいやす ヨハネ9:1~12)					レポート提出		
第15回	まとめとふりかえり		今後の課題、講義のまとめとふりかえり							
授業方法(付 録A4-7の ア・ア・ア 等)	誘導ディスカッション	グループワーク	ペアワーク	資料記入	クイズ、小テスト	授業中のノート取り				
評価方法 及び 評価 基準	<p>原則としてレポート50%(二回)、講義の出席と参加30%、木曜日の礼拝出席20%で評価する。 レポートは創世記から一回、福音書から一回。A4サイズ一枚程度。ループリック使用の上、記述の適切さ、自分の考えや意見がきちんと述べられているかを判断する。二回提出されない場合は不合格点となる。</p>									
課題等	講義時に指示。									
事前事後学修	講義前に予習として聖書テキストを丁寧に読んでくることは必須。人にもよるが週3時間程度要する。									
教材 教科書 参考書	『聖書 新共同訳』新共同訳で旧約聖書・新約聖書両方が入っているもの。 毎回プリントを配布する予定。ノートとプリントをとじるファイルを各自用意すること。									
留意点	木曜日10:20からの礼拝に参加すること。これにより欠席の多い者やレポートに自信のない者を救済する場合がある。									

科目名	キリスト教文化		科目ナンバリング		L-GECHO-03. UN	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード								
区分	一般教育科目	選択	担当者名	石垣雅子、井上裕太、奥野武志、鎌田学、川浪亜弥子、神戸直樹、志喜屋カローリナ、エドワード・フォーサイス、山本尚樹、スティーブン・マックウィニー、遊佐麻友子				授業 形態	講義	オムニバス	
	日本語教員	必修									
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>キリスト教は宗教として信仰されてきただけでなく、文化的にも大きな影響を与えている。その範囲は広範で、思想・倫理・文学・芸術・建築・制度・法律・習慣・言葉・歴史など枚挙に暇がない。キリスト教が生み出した文化は、信者であるか否かに関わらず、人類の大きな遺産であるといえる。この授業では、様々な専門分野の視点から、文化をキリスト教という側面から考えてみる。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの1・2・7に関連し、カリキュラムポリシーの1・2・7に関連している。</p>										
到達目標	キリスト教が日本および世界の文化に多種多様な影響を与えていることを理解する。										
授 業 計 画											
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考		
第1回	神の存在証明をしてみよう		西洋では、神学者たちが神が存在することを証明しようと長年苦心してきました。その努力の一端を覗いてみて、もし自分だったらどのように証明するか考えてみましょう。						9/30：鎌田学 資料はコピーにて配布		
第2回	宗教って何だろう？		「宗教は怖い」と言われます。宗教は本当に怖いのか。宗教や信仰の基本を考えてみましょう。						10/7：石垣雅子		
第3回	キリスト教芸術小話		知っている芸術作品をキリスト教的視点から見てみます。少し掘がって見えてくるはずですよ。						10/14：石垣雅子		
第4回	弘前学院外人宣教師館見学		弘前学院外人宣教師館を見学し、重要文化財としての歴史的価値について学ぶ。						10/21：井上裕太		
第5回	ハロウィーンの歴史		キリスト教会の歴史から現在のハロウィーンがどうやって進化を遂げたかについて話す。グループワークでディスカッションします。ICTを使って内容を評価しますので、履修者がスマートフォンをお持ちください。						10/28：エドワード・フォーサイス グループワーク		
第6回	クリスチャン文化と聖書言語		趣味として言語を学ぶ人、就職のために言語を学ぶ人が多い中で、ヘブライ語やギリシャ語を学ぶクリスチャンを招き、彼らがなぜ言語を学ぶのかについて理解することを目的とし、聖書の起源を学ぶ。＊ライトニングトークや対談を交えた形式で行う。						11/4：志喜屋カローリナ		
第7回	イギリスにおける宗教改革		シェイクスピアが活躍した時代におけるイギリスでのキリスト教信仰 キリスト教信仰とシェイクスピア作品の関係						11/11：川浪亜弥子		
第8回	信仰と学校行事		いわゆる戦前の学校教育において、教育勅語の奉読は学校行事の中心に位置していました。その教育勅語発布直後に起きた内村鑑三不敬事件（1891年）を題材に信仰と学校行事の問題について考えます。						11/18：奥野武志		
第9回	魂（心）と世界のとらえ方		自分の魂（心）をどうとらえるか、それは世界のとらえ方とも関連している。ここでは西洋思想における魂（心）のとらえ方をいくつか紹介していく。（授業時間外の学習 予習：心はどこに宿るのか、各自考えてこと。 復習：配布資料、ノートを見て復習し、必要であれば関連書籍を読むこと。）						12/2：山本尚樹		
第10回	キリスト教とセクシュアリティ		キリスト教において、セクシュアリティ（特にホモセクシュアリティや同性愛者）がどのように扱われてきたかを、講義に加え、映像資料（転向療法や矯正施設を扱った実話に基づいたアメリカ映画）とその内容に関するグループディスカッションを通して学ぶ。講義前に事前準備課題を行うこと（準備課題はTeamsまたは1週間前の講義で配布する）。						12/9：神戸直樹		
第11回	キリスト教と危機言語		消滅危機言語のひとつであるハワイ語を中心に、言語がキリスト教文化の影響で歴史的にどのように変化してきたのかを学ぶ。また言語の復興運動に関しても扱い、その実情を考察する。						12/16：遊佐麻友子 リフレクションシート		
第12回	クリスマスの由来		ヨーロッパの異教の祭典が、現在のキリスト教の祭典にどのように変化していったか、について話す						12/23：スティーブン・マックウィニー クイズ、小テスト		
第13回	聖書・キリスト教のことわざ		現代を生きる私たちにとって、当たり前のように使用していることわざや慣用語について、聖書やキリスト教に原点を持つものについて学ぶ。小テスト実施。						1/13：石垣雅子		
第14回	日本キリスト教小史		日本に伝えられたキリスト教はどのように広まり、どんな道のりをたどったのでしょうか。イエズス会の宣教から明治期の宣教師たち、そして現代まで、その歴史を学んでみましょう。						1/20：石垣雅子		
第15回	弘前学院の歴史		皆さんの母校となる弘前学院は、キリスト教主義を建学理念に掲げ、130年を超える歴史を刻んできました。その歩みを追います。						1/27：石垣雅子		
授業方法(ゼミナール、P771ブランチ等)	リフレクションシート	グループワーク	クイズ、小テスト								
評価方法及び評価基準	講義はオムニバスで担当し、評価は各担当の回数に比例して点数を比重化する。出席は毎回確認する。各担当者より小課題その他の方法によって、担当回分の評価を行う。										
課題等	授業内で課題やレポートが指示された場合は、期限内に提出すること。提出された課題・レポート等は適宜返却する。										
事前事後学修	学生便覧の「弘前学院の沿革と使命」の項を読んでおくこと。 各教員の指示に従って復習し、各自講義の内容を問い直しておくこと。2回続きの授業の場合は教員の指示に従い次回の予習をする。										
教材教科書参考書	各担当者により、必要に応じてプリント等資料配布										
留意点	担当者・担当順は変更になることがある。										

科目名	聖書と文学		科目ナンバリング	L-GECHO-04. U	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	B52010		30時間				
区分	一般教育科目	選択	担当者名	石垣 雅子			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>栗林輝夫『日本民話の神学』をテキストにして、日本の民話とキリスト教・神学との関わりを考察する。講読形式で行う。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1・2・7に関連し、カリキュラムポリシーの1・2・7に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. キリスト教神学という視座、聖書との関連から日本の民話を考える。</p> <p>2. 伝統的な解釈にとらわれず、新しい聖書の読み方を学ぶ。</p> <p>3. ジェンダーや性差別について学び、多様性を尊重できる価値観を構築する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	はじめに		『日本民話の神学』の概要説明、講義の仕方の説明、心構え							
第2回	『日本民話の神学』を読む(1)		序章：民話の世界を漂流する							
第3回	『日本民話の神学』を読む(2)		第一章：五分一の「失樂園」その1							
第4回	『日本民話の神学』を読む(3)		第一章：五分一の「失樂園」その2							
第5回	『日本民話の神学』を読む(4)		第一章：五分一の「失樂園」その3							
第6回	『日本民話の神学』を読む(5)		第二章：異界にワープしたお遍路の女 その1							
第7回	『日本民話の神学』を読む(6)		第二章：異界にワープしたお遍路の女 その2							
第8回	『日本民話の神学』を読む(7)		第三章：炭焼き五郎兵衛の錬金術 その1							
第9回	『日本民話の神学』を読む(8)		第三章：炭焼き五郎兵衛の錬金術 その2							
第10回	『日本民話の神学』を読む(9)		まとめ、ふりかえり発表会						レポート提出	
第11回	『日本民話の神学』を読む(10)		第四章：ちきりの女とホロコーストの娘 その1							
第12回	『日本民話の神学』を読む(11)		第四章：ちきりの女とホロコーストの娘 その2							
第13回	『日本民話の神学』を読む(12)		第五章：意外な知らせ・実は桃太郎は女だった その1							
第14回	『日本民話の神学』を読む(13)		第五章：意外な知らせ・実は桃太郎は女だった その2							
第15回	『日本民話の神学』を読む(14)		まとめ、ふりかえり発表会						レポート提出	
授業方法(併 せで、77分 ア・ラウンド 等)	グループワーク	ペアワーク	発表、ポスター作成	誘導ディスカッション	まとめアクティビティ	クイズ、小テスト	授業中のノート取り			
	自分の感想や意見を発表することは毎回行う									
評価 方法 及び 評価 基準	講義への出席と参加、意見や感想の発表、討論を60%、ふりかえり発表とレポート40%で評価する。									
課題 等	与えられた課題箇所は必ず読み、下調べをした上で参加。									
事前事 後学修	講読形式のため予習復習は必須。割り当て発表ではない。週あたり最低でも3時間程度の学習時間を要する。									
教材 教科書 参考書	テキスト：栗林輝夫 『日本民話の神学』 ISBN-978-8184-0290-4 日本キリスト教団出版局 2500円＋税 および『聖書 新共同訳』（各自が持っているもので良い）									
留意 点	初回からテキスト持参。 テキスト自体は決して難解なものではないが、毎回時間をかけ丁寧に読んでいくことが求められる。民話や物語、聖書やキリスト教に興味を持ち、なおかつその学習に熱意を持って取り組める者にのみお勧めできる講義である。									

科目名	哲学と倫理 A		科目ナンバリング	L-GEHU0-00. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G52000		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	鎌田 学			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 現代的テーマである「生命」、「幸福」、「自由」、「格差」などの諸問題を通覧し、自分の生き方、社会のありかたに対して自覚的に反省する。また、授業の中で、自分の考えを口頭で発表する力、文章にする力を養うための練習も行う。なお、テーマによって漫画、アニメ、映画も利用する。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの2・7に関連し、カリキュラムポリシーの2・7に関連している。</p>									
到達目標	<p>①広範な倫理問題に対して、自分なりの考えを表現できるようになること。②他人の意見を理解し、それに対して問題点を指摘する能力を身につけること。③難解な文章を読む力をつけること。④映像を読み解く力をつけること。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			「ここは今から倫理です。」						
第2回	「嘘も方便」は正しいか？			カントの倫理学説（義務論）について						
第3回	サバイバル・ロッターリー			生命倫理の問題、臓器移植は許されるか？						
第4回	「最大多数の最大幸福」			個人と社会のあり方を考える						
第5回	功利主義の基礎			功利主義とは？功利主義者の原典を読んでもみる						
第6回	幸福の計算			幸福とは何か、幸福へ至る道とは？						
第7回	人格概念			人格概念を検討する						
第8回	事実判断と価値判断			「である」と「べきである」の関係性について						
第9回	カントの定言命法			カントの倫理学説再説						
第10回	思いやりだけで道徳の原則ができるか？			道徳の原則とは何か？						
第11回	囚人のジレンマ			囚人にとって一番利益になる行為とは？						
第12回	施しは義務か？			貧者を援助しなければならないことの根拠						
第13回	正義は時代によって変わるか？			「格差」問題を考える						
第14回	科学は価値中立的か？			科学技術の光と闇						
第15回	まとめ			授業全体のまとめ						
授業方法(フ レンド、7対1 ブ・ラーニング 等)	PBL（問題解決型 学習）		理解度チェック							
評価 方法 及び 評価 基準	各種課題（50%）と期末試験（50%）。期末試験の評価は、小論文の内容、論理的構成、表記の正確さによって行う。									
課題 等	ワークシート“atelier”は翌週に返却。									
事前事 後学修	教科書の該当箇所を事前に一読し、内容を把握しておくこと。3時間程度の準備が必要。									
教材 教科書 参考書	『現代倫理学入門』（加藤尚武、講談社学術文庫、本体1067円、ISBN978-4061592674）									
留意 点	毎週、ワークシート“atelier”を授業時間内に完成させ、提出する。									

科目名	哲学と倫理B		科目ナンバリング	L-GEHU0-01.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	G52001		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	鎌田 学			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 ノーベル文学賞を1957年に受賞したカミュの『シーシュポスの神話』を読む。「不条理の哲学」と評されることが多いが、カミュの文章から多様なテーマを導き出し、追思考したい。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの2・7に関連し、カリキュラムポリシーの2・7に関連している。</p>									
到達目標	文章を正確に読み込んで、自分なりに解釈できるようになること。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			授業の進め方						
第2回	シーシュポスの神話			概観						
第3回	不条理な論証			講読、問題提起、ディスカッション						
第4回	不条理と自殺			講読、問題提起、ディスカッション						
第5回	不条理と自殺②			講読、問題提起、ディスカッション						
第6回	不条理な壁			講読、問題提起、ディスカッション						
第7回	不条理な壁②			講読、問題提起、ディスカッション						
第8回	哲学上の自殺			講読、問題提起、ディスカッション						
第9回	哲学上の自殺③			講読、問題提起、ディスカッション						
第10回	不条理な自由			講読、問題提起、ディスカッション						
第11回	不条理な人間			講読、問題提起、ディスカッション						
第12回	不条理な人間②			講読、問題提起、ディスカッション						
第13回	不条理な創造			講読、問題提起、ディスカッション						
第14回	不条理な創造③			講読、問題提起、ディスカッション						
第15回	まとめ			授業全体のまとめ						
授業方法(他 ゼミナール、PBL 等)	PBL (問題解決型 学習)		発表、ポスター作成	誘導ディスカッション						
評価 方法 及び 評価 基準	各種課題 (50%) と期末試験 (50%)。期末試験の評価は、小論文の内容、論理的構成、表記の正確さによって行う。									
課題 等	毎週、ワークシート“atelier”を授業時間内に完成させ、提出する。									
事前 事後 学修	教科書の該当箇所を事前に一読し、内容を把握しておくこと。3時間程度の準備が必要。									
教材 教科書 参考書	カミュ『シーシュポスの神話』(清水徹訳、新潮文庫737円、ISBN978-4102114025)									
留意 点	履修者は分量のある文章を毎週読み込んで、予習してくること。									

科目名	法と社会A (日本国憲法を含む)		科目ナンバリング	L-GEHU0-02. SKN	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	G52002		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	大野 拓哉			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>日本国憲法が規定する基本的人権の保障を学ぶ。まず、基本的人権の観念や歴史のほか基礎理論を学び、そのうえで、前期科目である「日本国憲法A」としては、各論として、包括的基本権、自由権、社会権等へと学びを進めていく。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの2・7に関連し、カリキュラムポリシーの2・7に関連している。</p>									
到達目標	日本国憲法が、近代以降の立憲政治の到達点であることをしっかりと理解し、そもそも基本的人権を保障するための仕組みとしての統治機構に関する深い知識を自己のものとするを旨とする。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	人権総論①			基本的人権とは						
第2回	人権総論②			基本的人権思想の歴史的展開①						
第3回	人権総論③			基本的人権思想の歴史的展開②					ディスカッション	
第4回	人権総論④			基本的人権の享有主体						
第5回	人権総論⑤			基本的人権の私人間効力						
第6回	人権総論⑥			特別の法律関係における基本的人権					ディスカッション	
第7回	人権総論⑦			基本的人権の限界と制約						
第8回	包括的基本権①			個人の尊重と幸福追求権						
第9回	包括的基本権②			幸福追求権の諸相						
第10回	包括的基本権③			法の下での平等						
第11回	包括的基本権④			家族生活と平等						
第12回	包括的基本権⑤			雇用関係と平等						
第13回	自由権①			思想及び良心の自由						
第14回	自由権②			信教の自由と政教分離					ディスカッション	
第15回	総括			まとめと振り返り					反転学習	
授業方法(ゼミナール、グループワーク、ディベート等)	誘導ディスカッション	グループワーク	ディベート							
評価方法及び評価基準	学期末に行う筆記試験のみで評価する。試験の形式はいわゆる論文式とし、解答に際しては、資料の参照を許可する。他方で、評価に関しては、何よりも、出題の意図がしっかりと捉えられているか否か、そのうえで、基本的な概念や論理が適切に理解されているか否か、また、場合によっては、基礎的な概念等を現実の事例の解明に適切に応用できているか否かというように、総じて、論理性を重視した評価を行う。									
課題等	特に指定しない。									
事前事後学習	参考文献等を地道に参照すること。憲法等の条文をきちんと参照すること。目安：毎週3時間									
教材教科書参考書	特に指定しない。プリントを適宜配付する。									
留意点	憲法の条文をその場で参照できるように、準備しておくこと。									

科目名	法と社会B		科目ナンバリング	L-GEHU0-03.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	G52003		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	大野 拓哉			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕            基本的人権Aに引き続いて、日本国憲法が規定する基本的人権の保障について学ぶ。日本国憲法Aで学んだ基礎理論を前提にしつつ、書く人権条項の内容を学ぶのに加えて、必要に応じて、裁判例などについても理解を深める            〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕            ディプロマポリシーの2・7に関連し、カリキュラムポリシーの2・7に関連している。</p>									
到達目標	<p>「日本国憲法A」と同様に、日本国憲法が近代以降の立憲政治の到達点であることをしっかりと理解し、基本的人権を保障する仕組みとしての統治機構に関する深い知識を自己のものにすることを旨とする。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	自由権③			学問の自由と大学の自治						
第2回	自由権④			表現の自由①						
第3回	自由権⑤			表現の自由②						
第4回	自由権⑥			表現の自由③					ディスカッション	
第5回	自由権⑦			経済的自由権の歴史展開						
第6回	自由権⑧			財産権の保障						
第7回	自由権⑨			職業選択の自由と営業の自由						
第8回	自由権⑩			居住・移転及び国籍離脱の権利						
第9回	社会権①			自由権と社会権					ディスカッション	
第10回	社会権②			生存権①						
第11回	社会権③			生存権②					ディスカッション	
第12回	社会権④			教育を受ける権利					ディスカッション	
第13回	社会権⑤			労働基本権①					ディスカッション	
第14回	社会権⑥			労働基本権②					ディスカッション	
第15回	総括			まとめと振り返り					反転学習	
授業方法(他 ディベート、グループ ワーク等)	誘導ディスカッション	グループワーク	ディベート							
評価方法及び評価基準	<p>学期末に行う筆記試験のみで評価する。試験の形式はいわゆる論文式とし、解答に際しては、資料の参照を許可する。他方で、評価に関しては、何よりも、出題の意図がしっかりと捉えられているか否か、そのうえで、基本的な概念や論理が適切に理解されているか否か、また、場合によっては、基礎的な概念等を現実の事例の解明に適切に応用できているか否かというように、総じて、論理性を重視した評価を行う。</p>									
課題等	特に指定しない。									
事前事後学修	参考文献等を地道に参照すること。憲法等の条文をきちんと参照すること。目安：毎週3時間									
教材教科書参考書	特に指定しない。プリントを適宜配付する。									
留意点	憲法の条文をその場で参照できるように、準備しておくこと。									



科目名	政治学 A		科目ナンバリング	L-GEHU0-04. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G52014		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	西東 克介				授業 形態	講義	単独
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 今日、社会全体がどちらかと言えば政治に無関心な状況が蔓延しています。そこでこの講義のねらいは政治と私たちの社会がどのような関係にあるのかを受講生に理解・意識してもらうことにあります。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2・7に関連し、カリキュラムポリシーの2・7に関連している。</p>									
到達目標	<p>・3点の理解を求めます。 ①なぜデモクラシー（民主主義）は悪魔にもなりうるのでしょうか。 ②なぜ政治や権力が人間の社会に不可欠なのでしょうか。 ③江戸幕府までの政治組織と近代行政官僚制ではどこが異なるのでしょうか。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修				備 考		
第1回	本講義概要・展開方法・試験等について			さらに、出欠や感想文とレポートの違いについて説明を行います。						
第2回	政治とは何か			非常に広い意味の概念だが、できる限りわかりやすく説明し、理解していただきます。				学生が5人ずつに分かれ疑問点をまとめる。		
第3回	権力とは何か・権威とは何か			M. ウェーバーの支配（権力）の正当性を使い、私たちの国・地方・コミュニティ・世界に存在する権力について解説し、理解。				同上		
第4回	弘前市議会議員を5名呼び、市政への関心を学生に高めてもらう。			次回第5回の初めの30分でワークショップを開催し、記録を取る。				同上		
第5回	マスメディアと政治			民主主義体制における政治家とマスメディアには基本的に価値観のタイルがあることを理解。				学生の疑問や意見に答える。		
第6回	民主主義			民主主義体制の長所と短所、民主主義体制以外の独裁体制についての理解。				学生が5人ずつに分かれ疑問点をまとめる。		
第7回	日本の集団主義文化と米国の個人主義文化			集団主義文化や個人主義文化は慣習であるが、日本の学校では、制度に集団主義文化が採用されています。日米の文化が政治に影響を与えていることを理解。				同上		
第8回	18歳選挙権と参政権			日本国憲法第16条には請願権が上げられているが、これは議会や行政に対して一定の手続きはあるものの、国籍や年齢に関わりなく、意見を述べるができることへの理解。				同上		
第9回	国際政治を理解するための基礎知識（1）			国際政治における兼六・条約・国際連合の関係を理解。				学生の疑問や意見に答える。		
第10回	パレスチナ・イスラエルの問題の歴史（1）			現在も武力衝突が続いている2勢力の歴史についての理解。				学生が5人ずつに分かれ疑問点をまとめる。		
第11回	パレスチナ・イスラエルの問題の歴史（2）			2勢力の歴史的背景の理解。				同上		
第12回	官僚制理論（1）			官僚制理論の基礎の理解。M ウェーバーの推定した組織化された社会の進行は今も続きます。その長所と短所について考察。				同上		
第13回	官僚制理論（2）			同上。				学生の疑問や意見に答える。		
第14回	リーダーシップと水平的集団主義文化			戦後我が国は、垂直的集団主義文化から水平的集団主義文化にかわりつつあるといます。双方の長所と短所について考察。				学生が5人ずつに分かれ疑問点をまとめる。		
第15回	制度と慣習			M. ウェーバーの制度と文化の絡みの分析の理解。				学生の疑問や意見に答える。		
授業方法(ゼミなど、7割がグループワーク等)	なぜ高校生から20代の若者が投票に行かないのか。行くためにはどうすればよいかを話し合う。									
評価方法及び評価基準	グループワーク（30%）と試験（70%）。									
課題等	できれば、新聞で、そうでなければ、テレビ・パソコン・スマホで政治に関する気になる記事を見たり、読んだりして下さい。									
事前事後学修	講義の前日は前述したことを必ず行って下さい。									
教材教科書参考書	・教科書；橋爪大三郎『政治の哲学』ちくま新書、880円。ISBN：978-4480071705									
留意点	なし									

科目名	政治学B		科目ナンバリング	L-GEHU0-05.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	G52015		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	西東 克介			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 政治学Bは、政治学Aを基礎編とすれば、応用編とも言える。民主主義体制の国では、日本国憲法第12条に示されているように、国民の「不断的努力によって」自由及び権利を保持するのである。どの国にも差別の問題が存在するが、その改善には、長い年月がかかっている。我が国の平和も日本人やアジア人の多くの命が奪われた結果の後の努力により維持されているのである。私たちが努力する方向性をさぐるために、さらに学んでいきたい。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの2・7に関連し、カリキュラムポリシーの2・7に関連している。</p>									
到達目標	政治には、未知な部分が多い。それゆえ、未来を切り開く自分自身にああでもないこうでもない常と問いかける自分自身を形成していった欲しい。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	本講義・展開方法・試験等について		出欠の取り方や感想文とレポートの違いについて理解。							
第2回	黒人差別の歴史的経過		米国黒人差別の歴史を植民地時代から19-20世紀までの経過を概説し、理解。					学生が5人ずつに分かれ疑問点をまとめる。		
第3回	公民権運動の動画鑑賞（1）		1950年代から1960年代までの公民権運動の動画の鑑賞。					同上		
第4回	公民権運動の動画鑑賞（2）		同上の鑑賞と残りの45分でワークショップ。					同上		
第5回	M. ウェーバーの政治家としての資質		リーダーは、リーダーの周囲との人間関係において成長し、周囲の人間もこれにより成長する。良き方向か、悪しき方向か、このことを周囲の間は常に配慮する必要があることを理解。					学生の疑問や意見に答える。		
第6回	銀内閣制・大統領制とリーダーシップ		議院内閣制と大統領制のリーダーシップの関係の理解。					学生が5人ずつに分かれ疑問点をまとめる。		
第7回	圧力団体・公益法人・NPO		圧力団体・公益法人・NPOを学び、調書・短所を理解。					同上		
第8回	文民統制・自衛隊・集団安全保障		民主主義国家における文民統制の理解、日本国憲法第9条と個別的自衛権・集団的自衛権、そして自衛権と国連の集団安全保障概念の理解。					同上		
第9回	日本の政策過程		日本の政策過程について、1955年以来形成されてきたパターンの理解。					学生の疑問や意見に答える。		
第10回	NGOとNPOのミッション		(NGOを含む) NPOの企業や行政と異なる点は何か。また、そのミッションとは何か。					学生が5人ずつに分かれ疑問点をまとめる。		
第11回	NPOの機能と構造のパターン		NPOの機能と構造のパターンからその長所と短所を理解。					同上		
第12回	ドイツの元首相メルケル		ドイツの元首相メルケルについて、その生い立ちから首相における業績の理解。					同上		
第13回	ウクライナへのロシアの武力攻撃		2022年2月24日ロシアはウクライナに侵攻し、戦争を始めた。これまでの状況の理解。					学生の疑問や意見に答える。		
第14回	欧州における性労働者の権利		欧州における性労働者の主張を紹介し、理解。					学生が5人ずつに分かれ疑問点をまとめる。		
第15回	前回のテーマでワークショップとまとめ		ワークショップをメモして残す。まとめ。					学生の疑問や意見に答える。		
授業方法(ゼミ、ディスカッション等)	黒人差別がなぜ続き、なぜ解消できないのかをグループ討議する。									
評価方法及び評価基準	2度のワークショップの記録(50%)と試験(50%)。									
課題等	差別のニュース・記事にテレビのニュース・パソコン・スマホなどで日常的に関心を持つ。									
事前事後学修	前回学んだテーマについて、パソコン・スマホなどで関連する情報を読んでみよう。									
教材教科書参考書	・教科書；橋爪大三郎『政治の哲学』ちくま新書、880円。ISBN：978-4480071705									
留意点	なし									

科目名	経済学 A		科目ナンバリング	L-GEHU0-06. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	G52016		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	福田 進治			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 近代以降のヨーロッパ経済の歴史と著名な経済学者（アダム・スミス、リカード、マルクス、マーシャル、ケインズ）の業績を学びながら、経済学の基本的な考え方を身に付けます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2・7に関連し、カリキュラムポリシーの2・7に関連している。</p>									
到達目標	経済学の歴史を学び、経済学の基本的な考え方を身に付けることを目指します。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	序 論			授業の目的、概要、方法について説明します。						
第2回	重商主義の時代			アダム・スミスの時代と生涯について学びます。						
第3回	市場メカニズム			アダム・スミスの価格理論と成長理論について学びます。						
第4回	小さな政府			アダム・スミスの経済政策と「小さな政府」について学びます。						
第5回	産業革命の時代			リカードの時代と生涯について学びます。						
第6回	国際貿易の原理			リカードの比較生産費説について学びます。						
第7回	階級闘争の時代			マルクスの時代と生涯について学びます。						
第8回	資本主義の構造			マルクスの資本主義経済の構造的分析について学びます。						
第9回	資本主義の歴史			マルクスの資本主義経済の歴史的分析について学びます。						
第10回	ヴィクトリア時代			マーシャルの時代と生涯について学びます。						
第11回	市場経済の理論			マーシャルの需給均衡理論について学びます。						
第12回	大恐慌の時代			ケインズの時代と生涯について学びます。						
第13回	マクロ経済の分析			ケインズの雇用理論と貨幣理論について学びます。						
第14回	福祉国家の形成			ケインズの経済政策と福祉国家について学びます。						
第15回	まとめ			授業の内容を振り返り、経済学の歴史について考えます。						
授業方法(ゼミ形式、グループワーク等)	授業中のノート取り									
評価方法及び評価基準	<p>1) 平常評価 (50%) : 毎回の授業に際して、コメント付き出席カードを提出してもらいます。各回の授業の出席状況、受講態度と学習意欲、授業の理解度を評価します。 2) 期末評価 (50%) : 期末試験を実施します。授業全体の理解度、現代社会に関する問題意識、自分の考えを文章によって論理的に説明する能力を評価します。</p>									
課題等	毎回の授業のコメントに対して、必要に応じて回答します。期末試験の答案については、希望者に返却します。									
事前事後学修	日頃から、テレビ・インターネット等で、政治・経済・社会のニュースを見る習慣をつけて下さい。授業の前に、参考書等を読んで下さい。授業の後に、ノートを読み返しなが、授業内容を振り返って下さい。1日あたり30分を目安とします。									
教材教科書参考書	(参考書) 八木紀一郎『経済思想』(第2版) 日本経済新聞出版社、2011年、ISBN: 9784532112431 ※品切中のため新品を入手することはできません。									
留意点	なし									

科目名	経済学B		科目ナンバリング	L-GEHU0-07.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	G52017		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	福田 進治			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 現代の資本主義経済の構造と分析方法、マクロ経済政策の必要性とその効果を学びながら、今日の日本経済をめぐる諸問題について考えます。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの2・7に関連し、カリキュラムポリシーの2・7に関連している。</p>									
到達目標	現代経済の基本的メカニズムを学び、日本経済の現状と課題を理解することを目指します。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	序 論			授業の目的、概要、方法について説明します。						
第2回	日本経済の動き			戦後の日本経済の動きと経済政策の考え方について学びます。						
第3回	マクロ経済分析			現代経済の構造と理論的把握の方法について学びます。						
第4回	失業の原因			失業の定義、概念、原因について学びます。						
第5回	総生産の決定			総生産（GDP）の定義、総生産の決定の原理について学びます。						
第6回	財政政策の効果			政府の役割と財政政策の効果について学びます。						
第7回	財政赤字と失業			財政政策の運用と限界について学びます。						
第8回	貿易の効果			貿易の国内経済に対する影響と関税の問題について学びます。						
第9回	為替レート			為替レートの決定と経済に対する影響について学びます。						
第10回	金融市場の役割			金融市場の役割と投資の決定の原理について学びます。						
第11回	利子率の決定			利子率の決定と資産選択の原理について学びます。						
第12回	金融政策の効果			中央銀行の役割と金融政策の効果について学びます。						
第13回	物価の変動			物価変動の原因と影響、金融政策の限界について学びます。						
第14回	経済成長と構造改革			経済成長の戦略を学び、今後の日本経済を展望します。						
第15回	まとめ			授業の内容を振り返り、日本経済について考えます。						
授業方法(付 属資料、PPT アプリケーション 等)	授業中のノート取り									
評価 方法 及び 評価 基準	<p>1) 平常評価 (50%) : 毎回の授業に際して、コメント付き出席カードを提出してもらいます。各回の授業の出席状況、受講態度と学習意欲、授業の理解度を評価します。 2) 期末評価 (50%) : 期末試験を実施します。授業全体の理解度、現代社会に関する問題意識、自分の考えを文章によって論理的に説明する能力を評価します。</p>									
課題 等	毎回の授業のコメントに対して、必要に応じて回答します。期末試験の答案については、希望者に返却します。									
事前事後 学修	日頃から、テレビ・インターネット等で、政治・経済・社会のニュースを見る習慣をつけて下さい。授業の前に、参考書等を読んで下さい。授業の後に、ノートを読み返しなが、授業内容を振り返って下さい。1日あたり30分を目安とします。									
教材 教科書 参考書	(参考書) 塚崎公義『一番わかりやすい日本経済入門』河出書房新社、2018年、ISBN: 9784309248417									
留意 点	なし									

科目名	心と身体A		科目ナンバリング	L-GEHU0-08. SN	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G52006		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	山本 尚樹				授業 形態	講義	単独
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 人とコミュニケーションを行っていくためには、その背後にある人の心のメカニズムの理解が必須となります。この授業では様々な心の能力の基礎的なメカニズムを学んでいきます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2・7に関連し、カリキュラムポリシーの2・7に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) 心理学の学問的特徴を理解する。 2) 「言語」「情動」「思考」などのコミュニケーションの基盤となる様々な心的能力の基本部分を理解する。 3) コミュニケーションの際に留意すべき心の個人差、文化差、つまつきについて理解する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考
第1回	ガイダンス			授業全体の概要や履修上の注意点を説明する。						
第2回	心理学とは何か			科学としての「心理学」がどのような学問か、概説する。						
第3回	心と脳			心のメカニズムの基盤となる中枢神経系について概説する。						
第4回	感覚と知覚（1）			視覚を中心に取り上げ人の感覚知覚の基礎的知見について概説する。						
第5回	感覚と知覚（2）			視覚を中心に取り上げ人の感覚知覚の応用的知見について概説する。						
第6回	記憶			人の記憶のメカニズムについて概説する。						
第7回	学習			人の学習に関する心理学の基礎研究や理論について概説する。						
第8回	言語			人が言語を理解、算出するメカニズムについて概説する。						
第9回	思考			人の思考のメカニズムとその傾向について概説する。						
第10回	情動			人の情動がその他の心的能力とどのように関わるのか概説する。						
第11回	性格・個人差			人の心の個人差に関する研究について概説する。						
第12回	社会と認知			人を取り巻く社会や文化がどのように物事の捉えかたに影響するのか概説する。						
第13回	心と進化			進化という観点から人の心の発生や特徴について概説する。						
第14回	認知と文化			人の認知機能にどのように文化が関わるか、概説する。						
第15回	まとめとふりかえり			授業全体について総括、補足する。						
授業方法(予 定)等	資料記入	リフレクションシ ート								
評価 方法 及び 評価 基準	平常点（授業の参加態度、コメントペーパーなど）40%、期末レポート60%									
課題 等	毎回コメントペーパーの執筆を課す。他、期末レポートを課す。									
事前事 後学修	事前学習について、授業前にシラバスに書いてある主題について各自文献などで調査しておくこと。また、毎回の授業をノートを取り、事後学習として復習を行うこと。									
教材 教科書 参考書	* 毎回の授業内容を記載したプリントを配布する。その他、参照してほしい文献などがある場合適宜指示する。									
留意 点	特になし									

科目名	心と身体B		科目ナンバリング	L-GEHU0-09. SN	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	G52007		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	山本 尚樹			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 人は絶えず成長・変化していく存在であるが、時には大なり小なり心理的トラブルに見舞われることがある。そうした時には周囲や専門職の手を借りることもある。この授業では心理学の中でも発達心理学と臨床心理学と呼ばれる領域を概説し、自分や他人の理解に資する知見を学んでいく。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの2・7に関連し、カリキュラムポリシーの2・7に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) 人の生涯発達、認知言語発達、対人関係の発達の变化について理解する。 2) 様々な心身の不調や心理療法の基本的な考え方について理解する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ガイダンス		授業全体の概要や履修上の注意点を説明する。							
第2回	生涯発達		生涯発達とは何か、またその発達段階について概説する。							
第3回	乳幼児期の認知・言語発達		乳幼児期の認知発達、言語発達について概説する。							
第4回	対人関係の発達		アタッチメントなどの対人関係の発達について概説する。							
第5回	心理的障害の見取り図		臨床心理学における異常（不適応）の考え方と精神医学的な診断基準について概説する。							
第6回	様々な心理的障害（1）		うつ、躁（双極性障害）、パニック症、強迫症について概説する。							
第7回	様々な心理的障害（2）		心的外傷後ストレス障害、統合失調症、パーソナリティ障害に関連する心理的障害について概説する。							
第8回	様々な心理的障害（3）		社交不安症、様々な発達障害について概説する。							
第9回	臨床心理面接		相談申し込みから心理的援助までの流れ、面接の基本枠組みなど心理面接の全体像を概説する。							
第10回	臨床心理学的アセスメント		臨床心理学におけるアセスメントについて、一連の流れを概観しながら説明していく。							
第11回	精神分析療法		心理療法について、精神分析の理論と実践を概説する。							
第12回	クライエント中心療法		心理療法について、クライエント中心療法の理論と実践を概説する。							
第13回	行動療法・認知療法		行動療法、認知療法について概説する。							
第14回	様々な心理療法のパラダイム		森田療法、内観療法、分析心理学などについて概説する。							
第15回	臨床心理学の現場		医療、教育、福祉など様々な領域でどのように心理臨床が関わっているのか概説する。							
授業方法(ディプロマポリシー等)	資料記入	リフレクションシート								
評価方法及び評価基準	平常点（授業の参加態度、コメントペーパーなど）40%、期末レポート60%									
課題等	毎回コメントペーパーの執筆を課す。他、期末レポートを課す。									
事前事後学習	事前学習について、授業前にシラバスに書いてある主題について各自文献などで調査しておくこと。また、毎回の授業をノートを取り、事後学習として復習を行うこと。									
教材教科書参考書	* 毎回の授業内容を記載したプリントは毎回配布する。その他、参照してほしい文献などがある場合適宜指示する。									
留意点	特になし									

科目名	教育と人間A (生涯学習)		科目ナンバリング	L-GEHU0-10. SSC	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G52018		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	奥野 武志				授業 形態	講義	単独
	社会教育士・学芸員	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 本授業では、「生涯学習」に関する歴史や制度の基礎について担当教員が講義を行った後、受講者がグループに分かれて意見交換を行い、代表者が前に出て発表する。そして各自が気づいたことを文章化することを通して、「生涯学習」についての理解を深めていくことを目指す。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの2・7に関連し、カリキュラムポリシーの2・7に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) 生涯学習とは何かについて、歴史的背景を踏まえながら自分の言葉で説明できる。 2) 生涯学習に関して、現在どのようなことが問題となっているのか自分の言葉で説明できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修					備 考	
第1回	ガイダンス			・本科目の目的・概要・学習及び評価の方法等について説明 ・生涯学習とは何か						
第2回	生涯学習の基礎 (1)			・生涯教育と生涯学習						
第3回	生涯学習の基礎 (2)			・生涯学習の法制と行政						
第4回	生涯学習の基礎 (3)			・生涯学習施設						
第5回	生涯学習の基礎 (4)			・生涯学習の方法						
第6回	生涯学習の基礎 (5)			・世界の生涯学習						
第7回	生涯学習の基礎 (6)			・生涯学習としてのスポーツ						
第8回	地域における生涯学習 (1)			・地域文化の継承						
第9回	地域における生涯学習 (2)			・地域防災教育						
第10回	生涯学習と学校教育 (1)			・貧困・格差社会と学校教育						
第11回	生涯学習と学校教育 (2)			・刑務所の中の学校						
第12回	生涯学習と学校教育 (3)			・若者支援と居場所づくり						
第13回	生涯学習と学校教育 (4)			・インクルーシブ教育						
第14回	生涯学習と学校教育 (5)			・多様性の包摂						
第15回	まとめ			・授業全体の総括						
授業方法(ゼミナール、グループワーク、アクティビティ、ディスカッション等)	グループワーク	まとめアクティビティ	誘導ディスカッション	発表、ポスター作成	リフレクションシート					
評価方法及び評価基準	<p>評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。 ・授業への取り組み(グループワーク、振り返り) : 50% ・まとめレポート : 50%</p>									
課題等	<p>・教師は毎回の授業でグループ発表に対してコメントする。 ・振り返りはteamsを通じて提出する。</p>									
事前事後学修	<p>・事前学修：日頃から教育に関するニュースに親しみ、何が問題となっているか把握しておく。 ・事後学修：授業を通じて浮かんだ疑問について調べる。事前事後合わせて3時間程度の学修を想定している。</p>									
教材教科書参考書	<p>・教科書は特に指定しない。毎回授業レジュメを配布し、参考書等を適宜紹介する。</p>									
留意点	<p>・授業計画はあくまで予定である。参加学生の興味関心等に応じて授業内容が変わることがある。</p>									

科目名	教育と人間B (社会教育)		科目ナンバリング	L-GEHU0-11. SSC	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	G52019		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	越村 康英			授業 形態	講義	単独	
	社会教育士・学芸員	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>教育・学習という営みは、学校や授業の中だけで完結するものではない。この授業では、生涯学習の視点から多角的に教育・学習という営みを捉え返し、生涯学習の理念・意義について探求する。また、生涯学習と、その中心的な領域である社会教育について、法律・制度、政策、実践など幅広い視点から概説していく。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの2・7に関連し、カリキュラムポリシーの2・7に関連している。</p>									
到達目標	<p>(1) 生涯学習の意義について、自己の生き方も結び付けながら理解できるようになること。</p> <p>(2) 生涯学習・社会教育に関する基礎的な知識を身に付けること。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	ガイダンス 生涯学習とは何か			授業の目的・内容・方法・評価について説明する。 生涯学習の基本的な概念について確認する。						
第2回	私の学習史—自己形成のあゆみ			教育・学習と自己形成の関係について振り返る。						
第3回	基本的人権としての教育・学習①			日本における識字問題を切り口に、教育・学習の意義について考察する。						
第4回	基本的人権としての教育・学習②			憲法・教育基本法、ユネスコ学習権宣言などに着目し、教育・学習の意義について掘り下げる。						
第5回	社会教育とは何か			社会教育法に即して社会教育の基本概念を解説する。						
第6回	生涯学習社会の構築と教育行政			教育委員会（社会教育行政）の制度と基本的な役割について解説する。						
第7回	生涯学習社会の構築と公民館			公民館の制度と基本的な役割について解説する。						
第8回	生涯学習社会の構築と図書館			図書館の制度と基本的な役割について解説する。						
第9回	生涯学習社会の構築と博物館			博物館の制度と基本的な役割について解説する。						
第10回	生涯学習を支援する主体の多様化			生涯学習を支援するための公的な仕組みに留まらず、NPO・企業など多様な主体が担っている役割について具体的に把握する。 ※それぞれWi-Fiに接続し、地元自治体の状況を調べる。						
第11回	国際社会における生涯教育論の展開			生涯学習をめぐる国際的動向について、ユネスコの動きを中心に解説する。						
第12回	日本における生涯学習政策の展開と特徴			1980年代以降の生涯学習政策の動向をレビューしながら、その特徴について解説する。						
第13回	生涯学習社会の構築に向けた課題			困難を抱えた人々の学習活動の保障・支援など、生涯学習社会の構築に向けた今日的課題について解説する。						
第14回	生涯学習社会の構築に向けた展望			社会教育行政・施設に求められる今日的役割に主眼を置きながら、生涯学習社会の構築に向けた展望を探る。						
第15回	試験 授業のまとめ			授業時間内に小論文形式の試験を行う。 その後、本授業のまとめを行う。						
授業方法(ゼミ、演習、グループワーク等)	資料記入	リフレクションシート	ペアワーク							
評価方法及び評価基準	<p>次の2点により総合的に評価する。</p> <p>(1) 平常点50%（授業時の「小課題」への取り組み、授業への参加姿勢から評価する。）</p> <p>(2) 試験50%（授業の到達目標に照らして評価する。）</p>									
課題等	<p>毎回の授業内容を振り返り、関心をもった点や疑問点について自分自身で探求していくことを期待する。</p> <p>※探求方法が分からない場合は、積極的に質問・相談してほしい。</p>									
事前事後学習	<p>レジュメ・資料を整理しながら授業内容の復習を行う。</p> <p>新聞やニュース、自治体の広報などを日常的に確認し、教育・学習に関する話題や議論について着目し、自分なりの見方・考え方を持てるようにする。</p> <p>週当たり3時間程度の学習が目安となる。</p>									
教材教科書参考書	<p>【教科書】購入が必要な教科書はない。レジュメ・資料などを配布し、授業を進める。</p> <p>【参考書】社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック（第9版）』エイデル研究所、2017年、978-4-87168-604-4 その他の参考書は、随時、授業のなかで紹介する。</p>									
留意点	<p>授業への積極的な参加を期待する。</p>									



科目名	歴史と社会 A		科目ナンバリング	L-GEHU0-12. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G52010		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	松本 郁代			授業 形態	講義	単独	
授業 の 概要 等	<p>【授業の主旨】</p> <p>欧米における社会福祉の歴史について概観する。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの2・7に関連し、カリキュラムポリシーの2・7に関連している。</p>									
到達 目標	<p>世界で最初に産業革命が起きた国であるイギリスにおいて、生活問題の対応として、社会福祉の原型から現在の形に整えていったのか、その過程を知ること。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	欧米における社会福祉の歴史			欧米における社会福祉の歴史を学ぶ意義						
第2回	古代における社会福祉の歴史①			古代都市国家における社会福祉の歴史①						
第3回	古代における社会福祉の歴史②			古代都市国家における社会福祉の歴史②						
第4回	古代における社会福祉の歴史③			古代都市国家における社会福祉の歴史③						
第5回	中世における社会福祉の歴史①			中世ヨーロッパにおける社会福祉の歴史①						
第6回	中世における社会福祉の歴史②			中世ヨーロッパにおける社会福祉の歴史②						
第7回	近代における社会福祉の歴史①			近代における欧米の社会福祉の歴史①						
第8回	近代における社会福祉の歴史②			近代における欧米の社会福祉の歴史②						
第9回	近代における社会福祉の歴史③			近代における欧米の社会福祉の歴史③						
第10回	近代における社会福祉の歴史④			近代における欧米の社会福祉の歴史④						
第11回	近代における社会福祉の歴史⑤			近代における欧米の社会福祉の歴史⑤						
第12回	現代における社会福祉①			現代における欧米の社会福祉の歴史①						
第13回	現代における社会福祉②			現代における欧米の社会福祉の歴史②						
第14回	現代における社会福祉③			現代における欧米の社会福祉の歴史③						
第15回	まとめ			現在日本の社会福祉の到達点と欧米の比較						
授業方法(付 属資料、77頁 ア・ラニング 等)	文献複写・報告、第16回の講義は、日本の社会福祉の歩みとの比較について講義する									
評価 方法 及び 評価 基準	客観式・短答式の試験100%									
課題 等	随時指示する									
事前事 後学修	課題を示した場合に、あらかじめ読んでおくこと。資料やコピーを、この講義の為だけのファイルを準備して整理すること。高校で学んだ世界史を復習しておくこと。									
教材 教科書 参考書	岩崎晋也 (2018) 『福祉原理』有斐閣、辞書類を持参のこと									
留意 点	遅刻・私語厳禁									

科目名	歴史と社会B		科目ナンバリング	L-GEHU0-13.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	G52011		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	松本 郁代			授業 形態	講義	単独	
授業 の 概要 等	【授業の主旨】 イギリスにおける社会福祉の歴史を人物史を通して講義する 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの2・7に関連し、カリキュラムポリシーの2・7に関連している。									
到達 目標	イギリスにおける現在の社会福祉について、その歴史的過程における人物を知ることによって理解する。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	イギリスの社会福祉			イギリスの社会福祉における人物史を学ぶ意味						
第2回	ピアトリス・ポッターについて			ピアトリス・ポッターの生育歴						
第3回	ピアトリスを取り巻く人々①			ピアトリスの家庭教師と周辺の人物						
第4回	COS活動			COS活動からイースト・エンドへ						
第5回	ウェブ夫妻について			ピアトリスとそのパートナー						
第6回	ピアトリスの研究活動			ピアトリスの論文						
第7回	王立委員会の設置			オクタヴィア・ヒルとチャールズ・ロック						
第8回	ヘレン・ポーザンケトとピアトリス			ピアトリスと仕事仲間						
第9回	王立委員会におけるピアトリス			少数派報告への道						
第10回	王立委員会報告			多数派報告と少数派報告						
第11回	ピアトリスの思想			イギリスの社会科学的思想系譜						
第12回	ピアトリスの評価			救貧法の廃止						
第13回	ピアトリスを取り巻く人々②			フェビアン協会						
第14回	ピアトリスを取り巻く人々③			シドニーの影響						
第15回	まとめ			「歴史と社会A」との関連						
授業方法(注 ディプロマ・ポリシー 参照)	文献複写・報告、第16回の講義は、ウェブ夫妻が来日した際のことを講義する									
評価 方法 及び 評価 基準	短答式・客観式の問題のみで評価する									
課題 等	その都度、指示をする。									
事前 事後 学修	その都度、指示をする。									
教材 教科書 参考書	金子光一（1997）『ピアトリス・ウェブの福祉思想』ドメス出版（ISBN：4-8107-0466-1）、辞書類を持参のこと									
留意 点	「歴史と社会A」を履修していることが、この科目を登録する際の要件となる。辞書類を持参のこと。									

科目名	現代の社会と文化 A		科目ナンバリング	L-GEHU0-14. SN	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G52012		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	小山内 詩織			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 現代社会について学ぶ際に避けて通れないテーマは「持続可能性」である。「持続可能性」について議論する際に、SDGsで取り上げられている17項目について網羅的に触れながら、社会現象や文化について検討する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2・7に関連し、カリキュラムポリシーの2・7に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsのテーマについて、各自がジブゴトとして捉えられるようになる</li> <li>・現在起こっている事象がどのような社会背景に起因するのか理解できるようになる</li> <li>・関心のある社会課題について他者に説明できるようになる。</li> </ul>									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修						備 考	
第1回	SDGsとなはにか		現代社会におけるSDGsの位置づけについて理解する。(プレゼンテーション担当項目の決定)							
第2回	1. 貧困をなくそう		日本や海外の貧困問題について実態を知り、改善へ向けたアイデアを提案する。						プレゼンテーション	
第3回	2. 飢餓をゼロに		日本や海外の飢餓問題について実態を知り、改善へ向けたアイデアを提案する。						プレゼンテーション	
第4回	3. すべての人に健康と福祉を		日本や海外の健康と福祉について実態を知り、改善へ向けたアイデアを提案する。						プレゼンテーション	
第5回	4. 質の高い教育をみんなに		日本や海外の教育を取り巻く実態と課題を知り、改善へ向けたアイデアを提案する。						プレゼンテーション	
第6回	5. ジェンダー平等を実現しよう		日本や海外のジェンダー平等について実態と課題を知り、改善へ向けたアイデアを提案する。						プレゼンテーション	
第7回	6. 安全な水とトイレを世界中に		日本や海外の衛生問題について実態を知り、改善へ向けたアイデアを提案する。						プレゼンテーション	
第8回	7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに		日本や海外のエネルギー問題について実態を知り、改善へ向けたアイデアを提案する。						プレゼンテーション	
第9回	8. 働きがいも経済成長も		日本や海外の労働や経済成長について実態と課題を知り、改善へ向けたアイデアを提案する。						プレゼンテーション	
第10回	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう		日本や海外の産業について実態を知り、技術革新へ向けたアイデアを提案する。						プレゼンテーション	
第11回	10. 人や国の不平等をなくそう		日本や海外の格差問題について実態を知り、改善へ向けたアイデアを提案する。						プレゼンテーション	
第12回	11. 住み続けられるまちづくりを		住み続けられるまちとはどのようなものか考え、まちづくりへ向けたアイデアを提案する。						プレゼンテーション	
第13回	12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を		生産・消費、気候変動について実態を知り、改善へ向けたアイデアを提案する。						プレゼンテーション	
第14回	14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう		環境問題に目を向けながら、海の豊かさや陸の豊かさを守るためのアイデアを提案する。						プレゼンテーション	
第15回	16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナーシップで目標を達成しよう		平和と公正とはなにか、それらを実現するためにどのように世界は協働すべきかアイデアを提案する。						プレゼンテーション	
授業方法(プレゼンテーション等)	第2回から第15回はプレゼンテーションを行う。									
評価方法及び評価基準	評価は参加態度(40点)プレゼンテーション(60点)によって行います。プレゼンテーションの評価は、内容、構成、スライドの見やすさ、発表態度を総合的に評価します。									
課題等	適宜指示します。									
事前事後学修	自身がプレゼンする内容に関連する資料などを読み、理解を深めてください。週当たり3時間程度。									
教材教科書参考書	参考資料は適宜提示します。									
留意点	授業はプレゼンテーションの内容を基に意見交換をして学びを深めますので、できる限り出席するようにしてください。15回中5回以上欠席すると評価対象外となります。									

科目名	現代の社会と文化B		科目ナンバリング	L-GEHU0-15. SS	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	G52013		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	小山内 詩織			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 現代社会について学ぶ際に避けて通れないテーマは「持続可能性」である。「持続可能性」について議論する際に、SDGsで取り上げられている17項目について網羅的に触れながら、社会現象や文化について検討する。本授業では、SDGs項目を単体で捉えず、各項目のつながりを感じながら、社会の現状と課題を把握し、改善案を導出していく。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの2・7に関連し、カリキュラムポリシーの2・7に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGsのテーマについて、各項目を分野横断的に分析し、各自がジブンゴトとして捉えられるようになる</li> <li>現在起こっている事象がどのような社会背景に起因するのか理解できるようになる</li> <li>関心のある社会課題について他者に説明できるようになる</li> </ul>									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修				備考		
第1回	SDGsが持つ特性			SDGsを構成している項目が、複合的に関わり合っていることを理解する。（プレゼンテーション担当テーマの決定）						
第2回	少子高齢化について			少子高齢化の現状と課題について明らかにしながら、SDGsのどの項目にかかわりがあるか考える。				プレゼンテーション		
第3回	地方の過疎化について			地方の過疎化の現状と課題について明らかにしながら、SDGsのどの項目にかかわりがあるか考える。				プレゼンテーション		
第4回	子どもの貧困について			子どもの貧困の現状と課題について明らかにしながら、SDGsのどの項目にかかわりがあるか考える。				プレゼンテーション		
第5回	ゴミ問題について			ゴミ問題の現状と課題について明らかにしながら、SDGsのどの項目にかかわりがあるか考える。				プレゼンテーション		
第6回	環境汚染について			環境汚染の現状と課題について明らかにしながら、SDGsのどの項目にかかわりがあるか考える。				プレゼンテーション		
第7回	グローバル化について			グローバル化の現状と課題について明らかにしながら、SDGsのどの項目にかかわりがあるか考える。				プレゼンテーション		
第8回	多様性について			多様性社会の現状と課題について明らかにしながら、SDGsのどの項目にかかわりがあるか考える。				プレゼンテーション		
第9回	ジェンダー平等について			ジェンダー平等の現状と課題について明らかにしながら、SDGsのどの項目にかかわりがあるか考える。				プレゼンテーション		
第10回	ポリティカルコレクトネスについて			ポリティカルコレクトネスの現状と課題について明らかにしながら、SDGsのどの項目にかかわりがあるか考える。				プレゼンテーション		
第11回	災害・防災について			災害・防災の現状と課題について明らかにしながら、SDGsのどの項目にかかわりがあるか考える。				プレゼンテーション		
第12回	災害からの復興について			災害からの復興の現状と課題について明らかにしながら、SDGsのどの項目にかかわりがあるか考える。				プレゼンテーション		
第13回	避難所で直面する課題について			災害時の避難所で生じる課題について明らかにしながら、SDGsのどの項目にかかわりがあるか考える。				プレゼンテーション		
第14回	結婚と家族について			結婚と家族のあり方について議論しながら、SDGsのどの項目にかかわりがあるか考える。				プレゼンテーション		
第15回	長寿社会における健康について			長寿社会における健康とは何か、その概念を議論しながら、SDGsのどの項目にかかわりがあるか考える。				プレゼンテーション		
授業方法(予 定外、70分 アラーニング 等)	第2回から第15回はプレゼンテーションを行う。									
評価 方法 及び 評価 基準	評価は参加態度（40点）プレゼンテーション（60点）によって行います。プレゼンテーションの評価は、内容、構成、スライドの見やすさ、発表態度を総合的に評価します。									
課題 等	適宜指示します。									
事前 事後 学修	自身がプレゼンする内容に関連する資料などを読み、理解を深めてください。過当たり3時間程度。									
教材 教科書 参考書	参考資料は適宜提示します。									
留意 点	授業はプレゼンテーションの内容を基に意見交換をして学びを深めますので、できる限り出席するようにしてください。15回中5回以上欠席すると評価対象外となります。									

科目名	情報の科学A (数理・データサイエンス・AI)		科目ナンバリング	L-GENAO-00.HKN		単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期	
			科目コード		30時間							
			1限目	G53000			4限目					G53002
			3限目	G53001								
区分	一般教育科目	必修	担当者名	大塚 敬義				授業 形態	講義	単独		
授業 の 概要 等	<p>【授業の主旨】</p> <p>本授業では、Society5.0時代に向けて必要となるAIやデータサイエンスの基礎知識と、これらを活用して諸課題を解決する基盤となる能力を身に付けることを目的とする。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>											
到達 目標	<p>①AI・データサイエンスの必要性を説明できる</p> <p>②社会におけるAI・データサイエンスの活用事例を説明できる</p> <p>③多量なデータを含む情報を分析し整理することができる</p>											
授 業 計 画												
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考			
第1回	ようこそデータサイエンスへ		データサイエンスで学ぶこと、データサイエンスを学ぶ心構え									
第2回	AIにサポートされる社会		AIによる共助の促進、AIに代替される経験知									
第3回	情報をめぐる世の中の潮流		情報を利活用する技術の変遷～使い方はどう変わってきたのかを知る～、Society5.0に向けた情報利活用の課題と対策～日本が目指す社会を知る～									
第4回	広がるデータ活用の幅		身近に広がるデータサイエンス									
第5回	開発の歴史といま		人工知能技術の成長と限界、生活の中のAI									
第6回	情報倫理とセキュリティ		情報セキュリティの要素、暗号資産のセキュリティ									
第7回	データの種類とその活用		データの種類、データの活用事例									
第8回	データリテラシー		平均とは、偏差値とは									
第9回	データの収集と視覚化		グラフの種類、誤解されないグラフ、2つのデータの関係、標本の抽出方法									
第10回	データの解析方法		2つのデータの関連性、平均の差の検定（t検定）									
第11回	情報の利活用と方法		情報の可視化、AIの登場と進化、データやAIを扱うときの注意点									
第12回	AIによる生活のアップデート(1)		スマートスピーカーやAIアシスタント、ロボット掃除機、無人決済店舗、チャットボット、自動翻訳、ボードゲーム									
第13回	AIによる社会のアップデート(2)		移動、農業、医療のそれぞれにおけるAIの利活用									
第14回	秩序あるデータの重要性		AI・データサイエンス時代のプライバシー保護、データと真摯に向き合う、信頼できる人工知能を目指して、AI活用における責任の所在									
第15回	これからの学びに向けて		データサイエンスのこれから、AIと労働問題～AIは人間を超えたか？～、デジタル・シティズンシップの重要性									
授業方法(ゼミナール・フィールドワーク等)	<p>実習、フィールドワーク</p> <p>教員からの説明を聞くのみだけでなくとどめずPC端末を用いて実際に自分の手を動かす。</p>											
評価方法及び評価基準	<p>毎回の授業への取り組み姿勢・授業参加度30%、提出物45%、期末試験25%の比率で評価する。</p> <p>事前準備、事後学習の状況も評価の対象とする。</p>											
課題等	<p>授業内で課題が出る。できていない場合は期限までに提出する。</p> <p>※ 欠席した場合も掲示に従って必ず期限までに提出すること。</p>											
事前事後学習	<p>2単位科目では週当たり3時間、実習形式の科目は90分の授業外の学修内容が必要である。</p> <p>事前学習：シラバスの確認、教科書の当該箇所の予習。与えられたテーマについて自分なりの情報収集をしておくこと。</p> <p>事後学習：授業中に学んだ機能・操作方法を、テキストと照らし合わせながら復習して確認すること。課題も提出のこと。</p>											
教材教科書参考書	<p>【教科書】『大学基礎 データサイエンス』、実教出版、ISBN 978-4-407-36122-3</p>											
留意点	<p>受講する時間によって科目コードが違うので間違えないこと。</p> <p>上記教科書を購入すること。教室外においてネット接続できるPC環境を備えていない学生はUSBメモリーを用意すること。</p>											

科目名	情報の科学B (数理・データサイエンス・AI)		科目ナンバリング		L-GENAO-01_SS	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	後期	
			科目 コード	3限目								4限目
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	大塚 敬義				授業 形態	講義	単独		
授業 の 概要 等	<p>【授業の主旨】</p> <p>Microsoft Officeの操作方法およびインターネットの正しい活用方法を学び、コンピュータを不自由なく使うための基本能力を身につけることを目的とする。また、SNSとの向き合い方や個人情報の保護、著作権の侵害などについても学ぶ。          【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>											
到達 目標	<p>①授業支援サイトを有効利用できる。          ②基本的なPC操作項目や業務効率を上げる操作技術を理解できる。          ③実務で役立つWord文書を作成できる。          ④初級程度のExcel活用能力を獲得できる。          ⑤PowerPointにより自分が調べたことを他者にわかりやすく伝えることができる。</p>											
授 業 計 画												
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考		
第1回	ガイダンス			Windowsの起動と終了、Microsoft Officeの設定								
第2回	メールの活用			メールの設定、メールの書き方、メールのマナー						情報倫理を含む		
第3回	学内環境の理解			IDとパスワードの重要性、授業支援サイトの利用						情報セキュリティ・情報倫理を含む		
第4回	個人情報や著作権について			SNSとの向き合い方、個人情報や著作権、検索サイトの使い方						インターネットによる学術情報の利用		
第5回	Wordの基本操作 1			文書の新規作成・編集・保存、文字入力、ショートカット操作の学習								
第6回	Wordの基本操作 2			ページ設定、印刷、文字・段落の書式設定								
第7回	Wordの基本操作 3			表の作成、図形・画像の挿								
第8回	Wordの基本操作 4			ビジネス文書の作成								
第9回	PowerPointの利用			用紙サイズの設定、アニメーションの作成、テーマの利用								
第10回	Excelによる表計算(1)			基本操作、加減乗除の計算順								
第11回	Excelによる表計算(2)			関数の利用：合計、平均、最大最小 絶対参照の活								
第12回	Excelによる表計算(3)			関数の利用：条件判定 順位付け 表検索								
第13回	Word, Excel, PowerPointの連携			アプリ間のデータ相互利用、貼り付け時の書式の使い分け								
第14回	実技試験 小テスト(1)			Wordによる実力判定テスト								
第15回	実技試験 小テスト(2)			Excelによる実力判定テスト								
授業方法(予 演習、フィールド ワーク 等)	<p>実習、フィールドワーク</p> <p>教員からの説明を聞くのみでなくとどめずPC端末を用いて実際に自分の手を動かす。</p>											
評価 方法 及び 評価 基準	<p>毎回の授業への取り組み姿勢・授業参加度30%、提出物45%、期末試験25%の比率で評価する。          事前準備、事後学習の状況も評価の対象とする。</p>											
課題 等	<p>授業内で課題が出る。できていない場合は期限までに提出する。          ※ 欠席した場合も掲示に従って必ず期限までに提出すること。</p>											
事前事 後学修	<p>2単位科目では週当たり3時間、実習形式の科目は90分の授業外の学修内容が必要である。          事前学習：シラバスの確認、教科書の当該箇所の予習。与えられたテーマについて自分なりの情報収集をしておくこと。          事後学習：授業中に学んだ機能・操作方法を、テキストと照らし合わせながら復習して確認すること。課題も提出のこと。</p>											
教材 教科書 参考書	<p>【教科書】『30時間でマスター Office2021』, 実教出版, ISBN 978-4-407-35937-4</p>											
留意 点	<p>受講する時間によって科目コードが違うので間違えないこと。          上記教科書を購入すること。教室外においてネット接続できるPC環境を備えていない学生はUSBメモリーを用意すること。</p>											

科目名	環境の科学		科目ナンバリング	L-GENAO-02. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	G53006		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名					授業 形態	講義	単独
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達目標										
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回										
第2回										
第3回										
第4回										
第5回										
第6回										
第7回										
第8回										
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
授業方法(ゼミ、フィールドワーク、グループワーク等)										
評価方法及び評価基準										
課題等										
事前事後学修										
教材教科書参考書										
留意点										

科目名	生命の科学A		科目ナンバリング	L-GENAO-03.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G53010		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	田中 真実			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】          生命の誕生からヒトの成長過程を学習し、更に、最先端生命の科学を習得する。DVDおよび解剖生理学のアニメーションを視聴し理解を深める。          【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】          ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命の誕生および生体の形態や機能について学ぶ。</li> <li>・最先端生命の科学について学ぶ。</li> </ul>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	生体のしくみ 1			ガイダンス。細胞と組織の概要とウイルスについて（WEBを視聴し理解を深める）						
第2回	最先端の生命の科学 1			iPS細胞の概要、DVD視聴「爆笑問題の山中教授とめぐる京都大学iPS細胞研究所」						
第3回	最先端の生命の科学 2			iPS細胞を用いた研究、DVD視聴「夢の扉 iPS細胞の未来」						
第4回	生体のしくみ 2			脳と神経（WEBを視聴し理解を深める）						
第5回	生体のしくみ 3			骨と筋肉（WEBを視聴し理解を深める）						
第6回	生体のしくみ 4			消化器（WEBを視聴し理解を深める）						
第7回	生体のしくみ 5			呼吸器（WEBを視聴し理解を深める）						
第8回	生体のしくみ 6			循環器①（WEBを視聴し理解を深める）						
第9回	生体のしくみ 7			循環器②（WEBを視聴し理解を深める）						
第10回	生体のしくみ 8			感覚器①（WEBを視聴し理解を深める）						
第11回	生体のしくみ 9			感覚器②（WEBを視聴し理解を深める）						
第12回	生体のしくみ 10			泌尿器（WEBを視聴し理解を深める）						
第13回	生体のしくみ 11			内分泌（WEBを視聴し理解を深める）						
第14回	生体のしくみ 12			血液と免疫①（WEBを視聴し理解を深める）						
第15回	生体のしくみ 13			血液と免疫②（WEBを視聴し理解を深める）レポート課題について						
授業方法(他 科目・77頁 ア・ラ・コフ 等)	シグソー・リーディング									
評価 方法 及び 評価 基準	2/3以上の出席につき、課題レポートによる評価(100%)。60%(60点)以上を合格とします。到達目標をどの程度達成されているのかをみる。									
課題 等	レポート課題はTeamsで提出する。									
事前 事後 学修	事前学修（60分）：講義概要および授業全体の流れを確認しておく、事後学修：週当たり3時間、授業の内容を振り返り、学修ポイントを復習する。									
教材 教科書 参考書	プリントとスライドを併用する。参考書：「なぜ？」からはじめる解剖生理学、松村 譲児（ナツメ社）、ISBNコード 978-4-8163-6294-1、これだけ！iPS細胞、夏緑（秀和システム）、ISBNコード 978-4-7980-4249-7									
留意 点	普段から生態系や環境について興味をもち、インターネットや雑誌の科学欄に必ず目を通す姿勢を身につける。									



科目名	生命の科学B		科目ナンバリング	L-GENAO-04. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G53011		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	宇田 宗弘				授業 形態	講義	単独
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>近年の生物学・生命科学は凄まじい勢いで進歩しています。iPS細胞の開発やがん免疫療法などは病気の治療や医療技術の発展に貢献しています。その一方で、生命科学の進歩、特にゲノム編集技術の進歩により、genome-edited babies (ゲノム編集赤ちゃん)の誕生など新たな倫理的問題も生まれています。本講義ではこれらを理解するための基礎的素養を養うこと、および最近の医学や医療・健康に関わる生命科学について学びます。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. 人間を中心とした側面から生物学・生命科学の基礎知識を学ぶ。</p> <p>2. 生物学・生命科学を社会との関わりから理解する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	自然科学、自然科学のプロセス			自然科学とは、推論の方法、科学的思考について						
第2回	細胞：生命の基本単位			生物（生命）とは、生物は細胞からできている、細胞はなぜ小さいのか						
第3回	メンデル遺伝学			メンデルの実験、ヒトで見られるメンデルの法則						
第4回	遺伝子の変異			遺伝子の変異とはなにか？、遺伝子多型、一塩基多型を調べる						
第5回	DNAの複製、転写、翻訳と変異			DNAの構造と複製、遺伝子の転写から翻訳のしくみ、変異の種類						
第6回	エピゲノム			エピゲノムとは、エピゲノムと転写調節、エピゲノム情報は遺伝する？						
第7回	感染と免疫			人類と感染症の戦い、ワクチンの開発、免疫応答のしくみ						
第8回	脳はどこまでわかったか			ヒトの脳の構造、神経細胞、記憶と学習の種類、記憶と長期増強						
第9回	身体運動の生命科学1			脳の構造と機能に対する身体運動（身体活動）の影響						
第10回	がん・細胞内シグナル伝達			細胞増殖と細胞死、がん遺伝子とがん抑制遺伝子、細胞内シグナル伝達、がんの診断と病理および治療						
第11回	食と健康1			食べるとは、消化と吸収の仕組み、食と健康をめぐる最近の話題						
第12回	食と健康2			肥満、エネルギー摂取と消費のバランス						
第13回	身体運動の生命科学2			身体運動（身体活動）と生活習慣病、2型糖尿病（または高血糖）への身体運動の効果とその分子メカニズム						
第14回	老化			老化とはどのような状態か、老化のメカニズム、老化の予防は可能か？						
第15回	生命科学技術と生命倫理			ゲノム編集、人口妊娠中絶						
授業方法(オンライン・オンデマンド・ブレンディング等)	クイズ、小テスト		授業中のノート取り							
	健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023では座位行動を減らすことが推奨されているため、30分に一度スクワット（10回）を行います。									
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席者につき、レポート（100%）により評価する。レポートでは授業で扱った内容についての理解度を問う問題を出题して、参考文献を用いて事実を記述しているかどうか、また事実をもとにして自らの意見を記述しているかどうか、さらに文章の論理性について評価します。60%（60点）以上を合格とします。									
課題等	課題等については授業で説明します。									
事前事後学修	各回の授業に該当する教科書の部分を読み、わからない単語や専門用語があった場合は調べて、教科書の内容が理解できるように予習（1.5時間以上）と復習（1.5時間以上）を行ってください。また教科書に掲載されていない内容については図書館やインターネット（各省庁の統計データや学術雑誌など）で、その情報を調べてください。									
教科書参考書	教科書：現代生命科学(第3版)、東京大学生命科学教科書編集委員会、羊土社 ISBN 9784758121033（必ず購入してください。） 参考書は授業で紹介します。									
留意点	Microsoft Teamsを使用しますので、オンライン授業の準備をしておいてください。授業ではSlidoアプリを用い、匿名でのライブアンケートや質疑応答、確認テストを行うことがあります。成績評価はレポートで行うため、オンデマンド授業はありません。									

科目名	科学と現代 A		科目ナンバリング	L-GENAO-05. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G53008		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	大塚 敬義				授業 形態	講義	単独
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>学生は当科目の学習を通じて新たな社会「Society5.0」を、その中でも特に人工知能（AI：Artificial intelligence）について産業界における、分かりやすく目に見える実用例や商品化例を理解し、必要な知識を習得する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. IoT（Internet of Things：モノすべてがネットにつながること）について習得できる。</p> <p>2. 新たな社会基盤である「5G」「仮想通貨」について習得できる。</p> <p>3. AI（人工知能）について習得できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考
第1回	ガイダンス			教材サンプルの閲覧。授業の進め方などの説明。						
第2回	企業や実社会におけるICTの利活用(1)			第1章 流通：コンビニ・スーパーマーケット、百貨店業、郵便・運送業。						
第3回	企業や実社会におけるICTの利活用(2)			第2章 製造 その1：自動車製造、食品・飲料製造、化粧品・日用品製造。						
第4回	企業や実社会におけるICTの利活用(3)			第2章 製造 その2：建設業、繊維工業（アパレル）、電機製造業。						
第5回	企業や実社会におけるICTの利活用(4)			第3章 金融 その1：銀行業、保険業、証券業。						
第6回	企業や実社会におけるICTの利活用(5)			第3章 金融 その2：仮想通貨、電子決済。						
第7回	企業や実社会におけるICTの利活用(6)			第4章 サービス その1：ホテル業、旅行代理業。						
第8回	企業や実社会におけるICTの利活用(7)			第4章 サービス その2：外食業、テーマパーク業、放送局						
第9回	企業や実社会におけるICTの利活用(8)			第4章 サービス その3：人材交流（マッチングアプリ）等、その他のサービス。						
第10回	企業や実社会におけるICTの利活用(9)			第5章 インフラ その1：通信業、鉄道業、航空業。						
第11回	企業や実社会におけるICTの利活用(10)			第5章 インフラ その2：空港、道路・インフラ管理業、石油および天然ガス生産・販売業。						
第12回	企業や実社会におけるICTの利活用(11)			第6章 公共：学校・学習塾、警察・警備、消防・防災。						
第13回	企業や実社会におけるICTの利活用(12)			第7章 ヘルスケア：病院、介護サービス業、製薬業。						
第14回	企業や実社会におけるICTの利活用(13)			第8章 その他：農業、水産業、スタジアム・スポーツ、ゲーム業。						
第15回	企業や実社会におけるICTの利活用(14)			第8章 その他：生成AI。期末試験に関する説明。						
授業方法(付 録Fの「7」の 「ア」～「カ」 等)	理解度チェック									
評価 方法 及び 評価 基準	毎回の授業に対する取り組み姿勢25%、毎回の授業の提出物50%、期末レポート試験25%の比率で評価する。事前準備、事後学習の状況も評価の対象とする。									
課題 等	授業内で課題が出る（文章形式で電子的に返答）。当科目では課題の提出期限が、毎回の授業時間内の90分間のみである。									
事前 事後 学修	2単位科目では週当たり3時間、実習形式の科目は90分の授業外の学修内容が必要である。 事前学習：シラバスの確認、教科書の当該箇所の予習。与えられたテーマについて自分なりの情報収集をしておくこと。 事後学習：授業中に学んだ機能・操作方法を、テキストと照らし合わせながら復習して確認すること。課題も提出のこと。									
教材 教科書 参考書	新聞記事やオンライン上の比較的新しい社会の話題について学ぶ。教科書の指定や購入義務なし。教員が独自に教材を提供する。当科目は将来性にあふれる若く有為な人材を育成することを目的とする。よって授業日時点で2年以上前の古くなった教材を原則として用いない方針とする。									
留意 点	当科目では Microsoft Officeの操作能力を修得する実技科目ではないことにご留意。									

科目名	科学と現代B		科目ナンバリング	L-GENAO-06.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	G53009		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	大塚 敬義			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】            高等学校の数学がそれよりもやや高度な領域を学ぶ統計学の授業です。教科書や板書を介して理論を学ぶほか、実際に受講者がExcelを操作し、体感的に理解を深める。            【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】            ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達目標	確率・統計の基本的な概念を理解し、考え方を身につける。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ガイダンス		講義運営・評価方法。Excelの分析ツールの利用開始方法。							
第2回	データの分類および性質、統計の基本(1)		平均値と標準偏差。「超」と「以上」の違い。「未満」と「以下」の違い。閉区間と開区間。							
第3回	統計の基本(2)		並び替え、順位、ポイントとパーセントの違い、累積度数分布、パレート図。							
第4回	正規分布およびその周辺知識(1)		度数分布、パーセンタイル値、統計値(中央値/最頻値/四分位数)、多峰分布と単峰分布。							
第5回	正規分布およびその周辺知識(2)		大数の法則、正規分布、分散、標準偏差、尖度、歪度、3シグマの法則、パーセンタイル。							
第6回	正規分布およびその周辺知識(3)		距離、絶対値、偏差平方和、自由度、標本数、標準正規分布、ABS関数、SQRT関数。							
第7回	正規分布およびその周辺知識(4)		標準化得点(zスコア)、偏差値。正規分布に関する総復習。							
第8回	相関と回帰分析(1)		クロス表、象限、共分散、同時分布と相関、正の相関、負の相関、相関の強弱、散布図、相関係数。							
第9回	相関と回帰分析(2)		月平均気温とビール出荷量にみる相関、外れ値の取り扱い方、相関係数の限界、相関の検定。							
第10回	相関と回帰分析(3)		演習1(身長と体重の単回帰分析)。演習2(家賃を決定する要因群の重回帰分析)。							
第11回	相関と回帰分析(4)		順位相関係数、多変量解析。演習3(名義尺度の要因を含む家賃の重回帰分析)。							
第12回	時系列データの予測(1)		移動平均：株価を題材に株価の上昇・下落傾向を予測する。ゴールデンクロス、デッドクロス。							
第13回	時系列データの予測(2)		指数平滑：株価を予測する別の方法。直近のデータとそれ以前のデータにどの程度重みを置くか。							
第14回	演習課題(1)		教員自らが直近の出版物の中から抽出した優れた教材を基とする演習問題。							
第15回	演習課題(2)		教員自らが直近の出版物の中から抽出した優れた教材を基とする演習問題。							
授業方法(付 録D-1参照 等)	理解度チェック									
評価 方法 及び 評価 基準	1. 受講態度、取組状況、貢献度(55%)。2. 授業毎回の提出物(45%)。期末試験の実施はありません。授業毎回における積み重ね(提出物)が大切です。									
課題 等	授業内でExcelブックが配付され課題が出る。当科目では課題の提出期限が、毎回の授業時間内の90分間のみである。									
事前事 後学修	2単位科目では週当たり3時間、実習形式の科目は90分の授業外の学修内容が必要である。 事前学習：シラバスの確認、教科書の当該箇所の予習。与えられたテーマについて自分なりの情報収集をしておくこと。 事後学習：授業中に学んだ機能・操作方法を、テキストと照らし合わせながら復習して確認すること。課題も提出のこと。									
教材 教科書 参考書	【教科書】上田太郎 監修/近藤宏・洲上美喜・末吉正成・村田真樹 共著：「Excelでかんたん統計分析」、オーム社(2007)。ISBN 978-4-274-06691-7									
留意 点	上記教科書を購入すること。									

科目名	科学と現代C		科目ナンバリング	L-GENAO-07.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G53012		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名					授業 形態	講義	単独
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達目標										
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回										
第2回										
第3回										
第4回										
第5回										
第6回										
第7回										
第8回										
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
授業方法(ゼミナール、演習、グループワーク等)										
評価方法及び評価基準										
課題等										
事前事後学修										
教材教科書参考書										
留意点										

科目名	科学と現代D		科目ナンバリング	L-GENAO-08. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G53013		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	長南 幸安				授業 形態	講義	単独
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 人間の生命を理解する能力を身に付けるため、例えばアミノ酸やタンパク質、糖類などの構造や機能を化学的に理解できるように、原子と分子、分子が持っている基本的な概念を学習し、化学の基礎的な法則や原理を習得します。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達目標	<p>生命科学の現象や仕組みを化学的考え方や方法によって理解できるようになるために、無機化学・物理化学・有機化学の基本を習得する。到達目標は、生命現象を化学的な視点から十分に理解でき説明できるような、基本的な化学の素養を獲得すること。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考
第1回	ガイダンス			ガイダンスとして授業の進め方と評価の説明。						
第2回	原子のすがた①			体を作る物質・原子の構造						
第3回	原子のすがた②			電子配置・電子配置の規則・原子の安定性と価電子						
第4回	「もの」の量の表し方			物質量の表し方あれこれ						
第5回	溶液中にどれだけ物質が存在するか			濃度の種類と定義						放射線の演習・実験
第6回	「もの」の成り立ち①			原子の結合						
第7回	「もの」の成り立ち②			分子の結合・化学反応						
第8回	有機化学①			有機化合物の分類法と表し方						
第9回	有機化学②			生体高分子の構造・消化と酵素						
第10回	水の化学①			からだのなかの液体						
第11回	水の化学②			イオンと電解質						
第12回	からだの中の現象①			浸透現象						
第13回	からだの中の現象②			酸と塩基						
第14回	からだの中の化学反応			化学反応と酵素・代謝・脂質の消化とミセル						
第15回	まとめ			今までの総まとめ						
授業方法(予 修、演習、フ ィールドワ ーク等)	授業中のノート取り		実習、フィールドワーク							
評価 方法 及び 評価 基準	<p>期末試験(100%)を評価の基礎点数とし、授業への参加態度などを点数として加減(±20%まで)し、総合的に判断し評価します。</p>									
課題 等	<p>期末試験の採点後の答案は、希望者に開示します。</p>									
事前 事後 学修	<p>学習した内容の復習(問題演習など):1日あたり15分以上 次回の準備学習時間の目安:1日あたり15分以上。</p>									
教材 教科書 参考書	<p>教科書:「看護系で役立つ 化学の基礎」有本淳一・西沢いづみ 共著 化学同人 ISBN: 978-4-7598-1543-6</p>									
留意 点	<p>毎回の出席を原則とします。 高校で「化学」未履修者向けのテキストを使用しますので、未履修者や化学が苦手な学生の受講も可能です。 連絡先(e-mail): cho@hirosaki-u.ac.jp オフィスアワー: 月～金 8:00～8:30 (弘前大学教育学部4-29号室)</p>									

科目名	ヘルスサイエンス論		科目ナンバリング	L-GENAO-09. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	G53014		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	宇田 宗弘			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>健康を保持増進したり、疾病の予防や早期発見と早期治療を行うには、健康や疾病についての基礎知識が必要である。また自分自身の健康のみでなく、家族の健康や職業などで他者の健康にかかわることも考えられることから、健康や疾病の知識を持つことは有益である。本講義は主に身体活動と体力・栄養・休養の視点から健康の保持増進について学習します。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達目標	<p>人体の臓器（または組織）の基本的な機能を理解するとともに、現在人の健康の保持増進についての基礎知識を身につける。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	授業の進め方などの説明、および熱中症について			授業の進め方と評価方法の説明、体温調節、熱中症の分類						
第2回	健康とは、健康問題の概観			健康の概念、統計からみた現代の健康問題、健康問題の発生要因						
第3回	栄養と健康（1）			消化と吸収のしくみ、栄養素の機能、サプリメント						
第4回	栄養と健康（2）			肥満						
第5回	心身の健康を知る（1）			健康診断(身長、体重、BMI、血圧、心電図、胸部X線)						
第6回	心身の健康を知る（2）			健康診断(血液検査:血球数、ヘモグロビン値、コレステロール、中性脂肪、クレアチニン値)						
第7回	心身の健康を知る（3）			メタボリックシンドローム、心の健康						
第8回	体力および持久力の指標			体力の分類とその加齢変化、および持久力の指標（視聴・課題提出期間：11月12日～11月21日を予定）				オンデマンド授業（予定）		
第9回	体活動・体力と疾病の関係			身体活動量・体力と疾病との関係、および健康関連体力						
第10回	身体運動のプログラム			効率的に持久力、筋力（筋肥大）、柔軟性を高めるトレーニングの方法						
第11回	身体活動・運動ガイド、WHO身体活動および座位行動に関するガイドライン			健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023とWHOとWHO身体活動および座位行動に関するガイドライン						
第12回	身体運動（スポーツ）による外傷・障害と応急処置			急性損傷、慢性損傷、RICE処置、突然死						
第13回	アダプテッド・スポーツ			アダプテッド・スポーツとは？、アダプテッド・スポーツの歴史と考え方						
第14回	アルコール・喫煙・睡眠と健康			健康に配慮した飲酒に関するガイドライン、人体への喫煙による急性・慢性の影響、健康づくりのための睡眠ガイド2023						
第15回	生物学的女性の健康と医学			性ホルモンの変化と卵巣および月経周期、月経関連疾患（PMS、月経困難症など）						
授業方法(オンデマンド・ブランチング等)	資料記入	理解度チェック	健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023では座位行動を減らすことが推奨されているため、30分に一度スクワット（10回）を行います。							
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席者につき、定期試験（100%）によって評価し、60%（60点）以上を合格とします。									
課題等	課題等については授業で説明します。									
事前事後学修	教科書は指定していませんが、各回の授業内容について図書館などを利用して各自で予習（1.5時間）をしてください。また復習として授業で説明した内容やその根拠、関連する事柄、疑問点などについて官公庁の資料や研究論文、書籍などで調べてください（1.5時間）。									
教材教科書参考書	講義時にプリントを配布します。									
留意点	新聞や雑誌の健康に係る記事や生活・科学欄を読むようにしてください。また質問や疑問がある場合は6号館（看護学棟）の宇田研究室に来てください。Teamsを使用します。授業では「Slido」を用い、匿名でのライブアンケートや質疑応答、確認テストを行うことがあります。									

科目名	地域研究B		科目ナンバリング		L-GEREO-01. SN	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード								
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	今村 かほる、宮田 将希 高橋 和幸、大瀬 富士子、 高田 まり子				授業 形態	講義	オムニバス	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 講義はオムニバス形式で行う。3学部の教員が共同体制で行う講義で、広く専門的な観点から、津軽や東北、あるいは日本といった、視点を変えて津軽のような「方言主流社会」において、方言話者と非方言話者との共生について、また世代間交流の問題についても学ぶ。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>										
到達目標	方言主流社会における生活者を、どのように支援していくか、そのための理論と方法を学び、実践に応用できるレベルに達することを目標とする。										
授 業 計 画											
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考		
第1回	地域課題とコミュニケーション		世代間コミュニケーション・方言理解・地域理解の全体像を示し、現代社会の課題として問題の位置づけをする						4/16：今村		
第2回	(言語1) 「方言概説」		地域方言としての津軽弁・東北方言と共通語の歴史について知る						4/23：今村		
第3回	(言語2) 「先行研究から」		医療・看護・福祉と方言研究の研究史を実際の資料を使って概観する						4/30：今村		
第4回	(言語3) 「津軽の問題を中心に」		地域課題としての高齢化と世代間コミュニケーションギャップの問題を考える。講義時の内容に関するグループワークをする。						5/7：今村 グループワークあり		
第5回	(言語4) 「災害と方言」		東日本大震災における被災地での支援者と被災者とのコミュニケーションギャップについて考える。グループワークをする。						5/14：今村 グループワークあり		
第6回	(言語5) 「保健医療福祉と方言 -よりよく生きるために-」1		これからの医療・看護・福祉を取り巻く問題 高齢化と外国人労働者						5/21：今村		
第7回	(言語6) 「保健医療福祉と方言 -よりよく生きるために-」2		これからの医療・看護・福祉を取り巻く方言問題の解決策を探る。討論・グループワーク。レポート課題。						5/28：今村 グループワークあり		
第8回	(社会福祉1) 「方言と文化、暮らし1」		社会的養護の状態にある子どもたちの理解						6/4：宮田		
第9回	(社会福祉2) 「方言と文化、暮らし2」		地域生活と子ども家庭福祉（弘前市における子ども子育て福祉施策について）						6/11：宮田		
第10回	(社会福祉3) 「方言と文化、暮らし3」		同じ訛りがあることに親しみを感じたり、同じ地域に住むことで一体感が生まれやすかったり、伝統文化や食文化には地域間で違いがあったりすることを再確認して頂く。その地方独特の方言と暮らしを尊重できるように、話題提供したい。						6/18：高橋		
第11回	(看護1) 「津軽弁からみる介護・看護の心」		津軽弁を通して、生老病死に寄り添い、尊厳を守り癒すことを考える（1）						7/2：大瀬		
第12回	(看護2) 「津軽弁からみる介護・看護の心」		津軽弁を通して、生老病死に寄り添い、尊厳を守り癒すことを考える（2）						7/9：高田		
第13回	(看護3) 「津軽弁からみる介護・看護の心」		津軽弁を通して、生老病死に寄り添い、尊厳を守り癒すことを考える（3）						7/16：高田		
第14回	(社会福祉4) 「方言と文化、暮らし4」		自分が生まれ育った地域に対する深い愛着を持ってふるさとが絶対的だという心情の形成に、方言は大きな影響力をもっているものと思われる。そこで、都道府県別幸福度ランキングから様々な地域特性を紹介して一緒に笑ったり、なぜ地域差が生まれるか一緒に考えたりしたい。						7/21：高橋 グループワークあり		
第15回	総括		オムニバス講義の総括をする						7/28：今村		
授業方法(付 録1の7頁 参照)	グループワーク										
評価 方法及び 評価 基準	講義はオムニバスで担当し、評価は各担当の回数に比例して点数を比重化する。出席は毎回確認する。講義時間中の課題によって出席に替える場合もある。レポートの場合、講義内容を整理しただけのものは「可」、先行研究を調べたものは「良」、先行研究を広く調べ知見を得ているものは「優」、さらに独創的な見解にいたったものは「秀」とする。										
課題 等	各担当者の指示による。										
事前 事後 学修	講義時に紹介する参考文献やURLを中心として調べ学習をし、レポートを書く。週当たり3時間の授業外学修が必要。										
教材 教科書 参考書	各担当者により、プリント等を配布する。また、Web上に公開した問診教材およびデータベースを利用する。										
留意 点	担当者により、講義時に課題・レポート・実技等を課すので、それぞれの指示に従うこと。オリエンテーション時に資料を配布する。										

科目名	教養演習 A		科目ナンバリング	L-GELS9-00. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	G50026		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	井上 裕太			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>野球は1872年に日本に伝来し、現在では人気スポーツの1つとなっている。そこで、「野球」というフィルターを通して、明治時代から現在までの日本の歴史について考える。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達目標	野球の歴史を学ぶだけでなく、学際的な視点から物事を捉える力を身に付ける。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			授業の進め方						
第2回	19世紀の日本野球史			19世紀の日本野球史について考える。						
第3回	1900～10年代の日本野球史			1900～10年代の日本野球史について考える。						
第4回	1920年代の日本野球史			1920年代の日本野球史について考える。						
第5回	1930年代の日本野球史			1930年代の日本野球史について考える。						
第6回	1940～50年代の日本野球史			1940～50年代の日本野球史について考える。						
第7回	1960～70年代の日本野球史			1960～70年代の日本野球史について考える。						
第8回	1980～90年代の日本野球史			1980～90年代の日本野球史について考える。						
第9回	2000～10年代の日本野球史			2000～10年代の日本野球史について考える。						
第10回	2020年代以降の日本野球史			2020年代以降の日本野球史について考える。						
第11回	野球と文化（1）			野球と文化について考える。						
第12回	野球と文化（2）			野球と文化について考える。					オンデマンド授業	
第13回	レポート発表（1）			学習した内容を踏まえてレポートを発表する。また、他者の発表を評価する。						
第14回	レポート発表（2）			学習した内容を踏まえてレポートを発表する。また、他者の発表を評価する。						
第15回	まとめ			授業の総括。						
授業方法(ゼミナール、グループワーク等)	グループワーク	発表、ポスター作成	リフレクションシート							
評価方法及び評価基準	授業への参加度（30%）、レポート（70%）により総合的に評価する。									
課題等	毎回コメントカードを提出する。出た質問については次の時間にフィードバックする。									
事前事後学修	授業で取り扱う年代の出来事について、事前に予習すること。									
教材教科書参考書	特に指定しない。適宜プリントを配布する。									
留意点	授業に積極的に参加し、発言すること。 第12回目はオンデマンド授業を行います。受講者は、指定された期間に、ネット上にアップされた授業動画を視聴し、授業で指示された課題およびコメントを提出してください。詳細は授業内に説明します。									



科目名	教養演習B		科目ナンバリング	L-GELS9-01.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	G50027		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	井上 裕太			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 明治時代から現在に至るまでの音楽文化について、「展示」に着目し、その変遷や特徴を学ぶ。あわせて、当時の流行音楽や社会的背景についても理解する。これらを通じ、多面的思考力を養う。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達目標	音楽文化について学ぶだけでなく、学際的な視点から物事を捉える力を身に付ける。									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修					備 考	
第1回	ガイダンス			授業の進め方						
第2回	明治期の音楽文化			明治期の音楽資料の展示や音楽文化について考える。						
第3回	大正期の音楽文化			大正期の音楽資料の展示や音楽文化について考える。						
第4回	音楽博物館建設運動と日本社会（1）			1930年代を中心とした音楽博物館建設運動と、当時の音楽文化について考える。						
第5回	音楽博物館建設運動と日本社会（2）			1930年代を中心とした音楽博物館建設運動と、当時の音楽文化について考える。						
第6回	音楽博物館建設運動と日本社会（3）			1930年代を中心とした音楽博物館建設運動と、当時の音楽文化について考える。						
第7回	戦時中の音楽文化			戦時中の音楽資料の展示や音楽文化について考える。						
第8回	1940年代後半の音楽文化			1940年代後半の音楽資料の展示や音楽文化について考える。						
第9回	1950年代の音楽文化			1950年代の音楽博物館論や音楽文化について考える。						
第10回	1960年代の音楽文化			1960年代の音楽博物館論や音楽文化について考える。						
第11回	1970年代～1990年代の音楽文化			1970年代～1990年代の音楽博物館論や音楽文化について考える。						
第12回	2000年代以降の音楽文化			2000年代以降の音楽博物館論や音楽文化について考える。						
第13回	音楽文化と地域			音楽文化と地域の関係性について考える。					オンデマンド授業	
第14回	レポート発表（1）			レポートを発表する。						
第15回	レポート発表（2）、まとめ			レポートを発表する。授業の総括。						
授業方法 (FD、FD、 グループワーク 等)	グループワーク	発表、ポスター作成	リフレクションシート							
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度（30%）、中間レポート（30%）、期末レポート（40%）により総合的に評価する。									
課題 等	毎回コメントカードを提出する。出た質問については次の時間にフィードバックする。									
事前 事後 学修	授業で取り扱う年代の出来事について、事前に予習すること。									
教材 教科書 参考書	【参考書】井上裕太『日本音楽博物館論』同成社、2021、ISBN:978-4-88621-858-2 参考書のため、購入しなくても授業に支障はありません。									
留意 点	授業に積極的に参加し、発言すること。 第13回目はオンデマンド授業を行います。受講者は、指定された期間に、ネット上にアップされた授業動画を視聴し、授業で指示された課題およびコメントを提出してください。詳細は授業内に説明します。									

科目名	教養演習C		科目ナンバリング	L-GELS9-02.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	G50028		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	鎌田 学			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 文法項目をスピーディーに総復習しつつ、旅行で使える実用表現、聞き取りを中心に学ぶ。また、現代ドイツを政治、経済、文化などの観点から眺めてみる。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達目標	文法を正確に理解し、会話できること。また、ドイツ社会を理解する基礎知識を得ること。									
授 業 計 画										
回	主 題	授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修							備 考	
第1回	ガイダンス	授業の進め方								
第2回	動詞の現在人称変化	左記文法項目について理解する。								
第3回	動詞の現在人称変化(2)	左記文法項目について理解する。								
第4回	不規則動詞の現在人称変化	左記文法項目について理解する。								
第5回	動詞の格支配	左記文法項目について理解する。								
第6回	再帰動詞	左記文法項目について理解する。								
第7回	前置詞の格支配	左記文法項目について理解する。								
第8回	定冠詞類、不定冠詞類	左記文法項目について理解する。								
第9回	複合動詞	左記文法項目について理解する。								
第10回	話法の助動詞	左記文法項目について理解する。								
第11回	動詞の三基本形	左記文法項目について理解する。								
第12回	受動態	左記文法項目について理解する。								
第13回	形容詞と副詞	左記文法項目について理解する。								
第14回	命令形、関係文	左記文法項目について理解する。								
第15回	まとめ	文法項目の総復習								
授業方法(注1) PBL(問題解決型 学習)										
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度(50%)、小テストおよび期末テスト(50%)。テスト(文法の基礎について)の評価は正解獲得点数によって行う。									
課題 等	課題は翌週の授業時間内で点検される。									
事前 事後 学修	文法問題が課題として与えられる。3時間程度必要。									
教材 教科書 参考書	『どんどん話そうドイツ語 Jetzt sprechen wir!』(Frank Riesner/Masatoshi Tanaka、郁文堂、2700円) ISBN978-4-261-01270-5									
留意 点	なし									

科目名	教養演習D		科目ナンバリング	L-GELS9-03.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	G50029		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	神戸 直樹			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 異文化コミュニケーション概論：本科目では、主にコミュニケーション学の観点から、異文化コミュニケーションに関する基本的な概念や理論を取り上げていく。具体的には、文化、コミュニケーション、アイデンティティ、ステレオタイプ、異文化適応、言語と非言語などのテーマやマスメディアにおける異文化の語られ方などを考察していく。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達目標	異文化コミュニケーションの諸問題や基本的な概念・理論を学ぶことを目的とする。									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修				備考		
第1回	導入			異文化コミュニケーションとIntercultural Communication						
第2回	文化とは			文化の定義、氷山モデル、教科書1-19ページ、リーディング・レスポンス1提出						
第3回	コミュニケーションとは			コミュニケーションの定義とモデル、教科書19-36ページ						
第4回	自己とアイデンティティ			アイデンティティの定義と特徴、教科書第2章、リーディング・レスポンス2提出、ワークシート						
第5回	偏見とステレオタイプ			選択的知覚、ステレオタイプ、偏見、差別、教科書第3章、観察メモ1提出						
第6回	言語コミュニケーション			低、高コンテクスト文化と言語、教科書第5章、リーディング・レスポンス3提出						
第7回	非言語コミュニケーション			非言語行動の種類と特徴、教科書第6章、観察メモ2提出						
第8回	空間、時間と文化			Mタイム、Pタイム、対人距離、リーディング・レスポンス4提出、ハンドアウト						
第9回	異文化適応			カルチャーショック、U曲線、W曲線、DMISモデル、教科書第7章						
第10回	対人コミュニケーションにおける異文化			対人関係構築プロセスと異文化コミュニケーション、教科書第8章、リーディング・レスポンス5提出						
第11回	異文化コミュニケーション能力			異文化コミュニケーション能力の構成モデル、教科書第9章、観察メモ3提出						
第12回	マスメディアにおける異文化			メディアにおける「異」の表象、オリエンタリズム、リーディング・レスポンス6提出、ハンドアウト						
第13回	異文化コミュニケーションの研究			異文化コミュニケーションの研究の歴史と特徴、教科書第10章、分析レポート提出						
第14回	批判的異文化コミュニケーション研究			批判的研究の目的と特徴、リーディング・レスポンス7提出、ハンドアウト						
第15回	期末試験、まとめ			試験準備、授業の振り返り						
授業方法(方法、手段、教材、アプリーション等)	グループワーク	ペアワーク	ロールプレイング	誘導ディスカッション	資料記入	授業中のノート取り				
評価方法及び評価基準	<p>授業参加度(ワークシート含)(20%) リーディング・レスポンス(20%) 観察メモ(15%) 分析レポート(20%) 期末試験(25%)</p>									
課題等	上記参照									
事前事後学修	200分以上/週									
教材教科書参考書	教科書：石井敏・久米昭元・長谷川典子・桜井俊行・石黒武人、2013、『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション：多文化共生と平和構築に向けて』、有斐閣。(978-4-641-28133-2)									
留意点	<p>1. 授業準備に時間をかけ、その準備をもとに積極的に授業参加することが求められる。 2. 上記の教科書は第2回目の授業までに必ず準備すること。</p>									

科目名	教養演習 E (留学生のための日本語・中級) 【留学生のみ】		科目ナンバリング	L-GELS9-04. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
	科目コード	G50030	30時間							
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	志喜屋 カロリーナ			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 来日する留学生の日本語能力向上を目指した授業のため、個別に授業計画を行うが、基本的にはアカデミックな文章の【読解能力を伸ばす】ことを目標とし、授業を行う。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達目標	大学生生活に必要な日本語の文章を読んで理解するための語彙力と読解技術を身に付ける。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	オリエンテーション			授業の進め方・日本語学習のメタ認知						
第2回	10代のうちに考えておくこと			文章にサブタイトルを付ける						
第3回	「草は生きているか」疑うことが命を知る入口			筆者がまとめた「科学的に明らかにされている事柄」を3つ抜き出す						
第4回	仕事選び			文章を要約する						
第5回	障害と私			気遣いと適度な距離感について理解する						
第6回	フィンランドの学校で			学校教育の国別比較						
第7回	マニュアル社会			筆者の独特な表現が何を意味するものが何かを考える						
第8回	遺伝子検査			現状・良い点・悪い点・自分の意見の順番に文章を構成する。						
第9回	コミュニケーションの日本語			意見が違う人とのコミュニケーションの取り方						
第10回	丸裸の山で			環境に関する文章を読み、筆者の主張を理解する。						
第11回	発表①			前回のテーマを受け、特定の食料品を生産することで生活環境にどのような影響があるのかを調べ、発表する。					ディスカッション	
第12回	何かを選択すればゴールに近づく			文章構成を理解し、段落ごとの要旨をまとめる。						
第13回	発表②			前回のテーマを受け、人生の選択に関して自分の経験を振り返り、話し合う。					ディスカッション	
第14回	とても大事な水の話			復習						
第15回	見通す力			復習						
授業方法(ゼミ形式、グループワーク等)	ディベート	発表、ポスター作成								
評価方法及び評価基準	<p>1. 授業ごとに用意された全問題に答え提出する。70% 2. 発表ごとに設定された目標の到達度によって総合的評価を行う。30%</p>									
課題等	各課の要約文をTeamsで事前に提出する。									
事前事後学修	授業ごとに3時間程度の予習や復習を想定している。授業毎に語彙の意味は最低限調べておき、発表の前には準備などに時間をかける。									
教材教科書参考書	「話す書くにつながる日本語読解」アルク ISBN 978-4-7574-2685-6									
留意点	なし									

科目名	教養演習 F (留学生のための日本語・中級) 【留学生のみ】		科目ナンバリング	L-GELS9-05.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	G50031		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	志喜屋 カロリーナ			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 来日する留学生の日本語能力向上を目指した授業のため、個別に授業計画を行うが、基本的にはアカデミックな文章の【読解能力を伸ばす】ことを目標とし、授業を行う。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達目標	<p>大学生生活に必要な日本語の文章を読んで理解するための語彙力と読解技術を身に付ける。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	第1課 習い事は役に立つ？			経験について詳しく話す						
第2回	第1課 習い事は役に立つ？			経験について発表する						
第3回	第2課 漢字・ひらがな・カタカナ、 どれで書く？			説明文を読む						
第4回	第2課 漢字・ひらがな・カタカナ、 どれで書く？			調べたことを紹介する						
第5回	第3課 昔話の世界を知ろう			自分が考えた結末を紹介する						
第6回	第3課 昔話の世界を知ろう			意見を言う						
第7回	第4課 旅の計画を立ててみよう			情報を探して読み取る						
第8回	第4課 旅の計画を立ててみよう			計画について説明する						
第9回	第5課 違いについて考えてみよう			他の人の話の要点をまとめる						
第10回	第5課 違いについて考えてみよう			比べて説明する文章を書く						
第11回	第6課 音楽にはどんな力がある？			番組を聞く、ブログ記事を読む						
第12回	第6課 音楽にはどんな力がある？			思い出について詳しく話す						
第13回	第7課 日本から世界へ			説明文を読む						
第14回	第7課 日本から世界へ			調べたことを発表する						
第15回	期末試験			試験＋フィードバック						
授業方法(ゼミ、FD、PBL、グループワーク等)	発表、ポスター作成	ディベート	ペアワーク							
評価方法及び評価基準	授業への取り組み30%、期末試験70%									
課題等	各課の要約文をTeamsで事前に提出する。									
事前事後学修	授業ごとに3時間程度の予習や復習を想定している。語彙の意味は最低限調べておく。									
教材教科書参考書	<p>タスクベースで学ぶ日本語 中級1 — Task-Based Learning Japanese for College Students 国際基督教大学 教養学部 日本語教育課程 978-4883199044</p>									
留意点	なし									

科目名	教養演習G		科目ナンバリング	L-GELS9-06.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	G50032		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	鎌田 学			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 古代ローマ帝国の公用語であり、中世から近代初頭にいたるまでカトリック教会を中心とする全ヨーロッパの知識層の共通言語であるラテン語を学ぶ。現代英語の理解を深めることにもつながる。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達目標	できるだけ多くの文法項目を理解し、ラテン語の文章を正確に日本語訳できるようになること。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			文字、発音、音節とアクセント						
第2回	現在直説法能動相、第一、第二活用			左記項目を学ぶ						
第3回	名詞、第一活用			左記項目を学ぶ						
第4回	動詞、第三、第四、第五活用			左記項目を学ぶ						
第5回	名詞、第二活用（1）			左記項目を学ぶ						
第6回	形容詞活用、第一、第二活用（1）			左記項目を学ぶ						
第7回	未完了過去直説法能動相			左記項目を学ぶ						
第8回	名詞、第二活用（2）			左記項目を学ぶ						
第9回	形容詞活用、第一、第二活用（2）			左記項目を学ぶ						
第10回	未来直説法能動相			左記項目を学ぶ						
第11回	前置詞、所格、eo			左記項目を学ぶ						
第12回	不定詞、sum, possum			左記項目を学ぶ						
第13回	名詞、第三活用（1）			左記項目を学ぶ						
第14回	形容詞、第三活用（1）			左記項目を学ぶ						
第15回	完了直説法能動相			左記項目を学ぶ						
授業方法(アクティブラーニング等)	PBL (問題解決型学習)	理解度チェック								
評価方法及び評価基準	授業への参加度（50%）、小テストおよび期末テスト(50%)。テスト(文法の基礎について)の評価は正解獲得点数によって行う。									
課題等	課題は翌週の授業時間内で点検される。									
事前事後学修	文法問題が課題として与えられる。3時間程度必要。									
教材教科書参考書	『ラテン語初歩 改訂版』（田中利光著、岩波書店、本体3400円、ISBN978-4000024198）									
留意点	初回時、教科書必ず持参すること。									

科目名	教養演習H		科目ナンバリング	L-GELS9-07.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	G50033		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	神戸 直樹			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>非言語コミュニケーション論：対人コミュニケーションにおいて、身振り、手振り、顔の表情、視線、周辺言語、身体接触、対人距離など、ことば以外の手段によって伝えられる非言語（ノンバーバル）メッセージが果たす役割は質、量ともに非常に大きい。本科目は、さまざまな非言語的伝達手段とコミュニケーションに関する理論・概念を考察し、それらを用い実際のコミュニケーションを観察、分析することで、辞書には載っていない非言語メッセージの意味を探っていく。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) 非言語コミュニケーションに関する基本的な理論や概念を用いて、実際のコミュニケーションにおける非言語メッセージの特性・機能・意味を説明できるようになる。</p> <p>2) 実際のコミュニケーション状況において、非言語コミュニケーションをより多角的に観察したり、自覚的に実践したりできるようになる。□</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	オリエンテーション			コミュニケーションの定義とモデル						
第2回	非言語コミュニケーションの機能と特徴			教科書1章、リーディング・レスポンス1提出						
第3回	外見と魅力			教科書2章						
第4回	ジェスチャーと動作			教科書3章、リーディング・レスポンス2提出						
第5回	顔の表情			教科書4章、観察メモ1提出						
第6回	視線行動			教科書5章、リーディング・レスポンス3提出						
第7回	音声行動・周辺言語			教科書6章、観察メモ2提出						
第8回	空間・対人距離			教科書7章、リーディング・レスポンス4提出						
第9回	身体接触			教科書8章						
第10回	異文化コミュニケーションと非言語メッセージ			教科書13章、リーディング・レスポンス5提出						
第11回	ジェンダーと非言語コミュニケーション			教科書11章、観察メモ3提出						
第12回	人間関係における非言語コミュニケーション			ハンドアウト、リーディング・レスポンス6提出						
第13回	説得と非言語コミュニケーション			ハンドアウト、分析レポート提出						
第14回	オンラインの非言語コミュニケーション			ハンドアウト、リーディング・レスポンス7提出						
第15回	期末試験、まとめ			試験準備、授業の振り返り						
授業方法(ゼミナール、フロンティアラーニング等)	グループワーク	ペアワーク	ロールプレイング	誘導ディスカッション	資料記入	授業中のノート取り				
評価方法及び評価基準	<p>授業参加度(ワークシート含)(20%)</p> <p>リーディング・レスポンス(20%)</p> <p>観察メモ(15%)</p> <p>分析レポート(20%)</p> <p>期末試験(25%)</p>									
課題等	上記参照									
事前事後学修	200分以上/週									
教材教科書参考書	教科書：V.P.リッチモンド、J.C.マクロスキー、2006、『非言語行動の心理学：対人関係とコミュニケーション理解のために』、北大路書房。(978-4762824906)									
留意点	<p>1. 授業準備に時間をかけ、その準備をもとに積極的に授業参加することが求められる。</p> <p>2. 上記の教科書は第2回目の授業までに必ず準備すること。</p>									

科目名	教養演習Ⅰ		科目ナンバリング	L-GELS9-08.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	G50034		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	鎌田 学			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】          文法項目をスピーディーに総復習しつつ、旅行で使える会話実用表現を中心に学ぶ。また、現代フランスを政治、経済、文化などの観点から眺めてみる。毎週担当者を決めて、各自興味をもつ「フランス事情」に関する短いプレゼンの時間も設定する予定。          【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】          ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達目標	文法を正確に理解すること（CEFRのA2レベル）。また、フランス社会を理解する基礎知識を得ること。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			発音の基礎						
第2回	国籍や職業をたずねる			主語人称代名詞、基本動詞						
第3回	様々な-er動詞			基本動詞、否定文						
第4回	好きなものをたずねる			名詞と定冠詞						
第5回	「どこで」「だれと」をたずねる			疑問詞、不定冠詞						
第6回	所有を表現する			形容詞						
第7回	様々な活動について話す			否定の復習						
第8回	食事について話す			部分冠詞						
第9回	よく行く場所について話す			前置詞、人称代名詞・強勢形						
第10回	習慣についてたずねる			代名動詞						
第11回	計画についてたずねる			近未来						
第12回	行きたい場所についてたずねる			命令形						
第13回	過去の出来事についてたずねる			複合過去						
第14回	一日の行動を話す			半過去						
第15回	まとめ			文法項目のまとめ						
授業方法(ゼミナール、PBL等)	PBL(問題解決型学習)	発表、ポスター作成	理解度チェック							
評価方法及び評価基準	授業への参加度(50%)、小テストおよび期末テスト(50%)。テスト(文法の基礎について)の評価は正解獲得点数によって行う。									
課題等	課題は翌週の授業時間内で点検される。									
事前事後学修	文法問題が課題として与えられる。3時間程度必要。									
教材教科書参考書	<i>Dis-moi tout! nouvelle édition</i> (Léna Giunta, Tomohiko Kiyooka, 白水社、本体2600円、ISBN978-4-560-06140-4)									
留意点	未習者は相当の努力が必要。なお、教科書は最新版を購入すること。									



科目名	教養演習 J		科目ナンバリング	L-GELS9-09. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	G50035		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	鎌田 学			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】  ハンス・ペーター・リヒター(1925-1993)の自伝的小説を読む。日本の教科書に掲載されたり、舞台化された名作。アウシュビッツ解放80年の今年、改めて戦争について考える。  【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】  ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達目標	平易な表現に含まれる普遍的なものを探りあて、自分の言葉で表現できるようになること。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			授業の進め方、課題のやり方について説明する						
第2回	生まれたころ、じゃがいもパンケーキ			講読、問題提起						
第3回	雪、祖父			講読、問題提起						
第4回	金曜日の夕べ、入学式			講読、問題提起						
第5回	学校からの帰りみち、とめ輪			講読、問題提起						
第6回	ボール、階段での話			講読、問題提起						
第7回	シュナイダーさん、裁判			講読、問題提起						
第8回	デパートで、先生			講読、問題提起						
第9回	掃除婦、理由			講読、問題提起						
第10回	プール、儀式			講読、問題提起						
第11回	出会い、ポグロム			講読、問題提起						
第12回	死、修理屋			講読、問題提起						
第13回	映画、ベンチ			講読、問題提起						
第14回	ラビ、星			講読、問題提起						
第15回	ソロモン、ある訪問			講読、問題提起						
授業方法(付 属資料、77頁 参照)	PBL (問題解決型 学習)		発表、ポスター作成							
評価 方法 及び 評価 基準	各種課題(50%)と期末試験(50%)。後者の評価はおもに、①説得力、②独自性、③表現力によって行う。									
課題 等	毎週予習し、あらかじめ自分のコメントを考えてくること。									
事前事 後学修	3時間程度必要。									
教材 教科書 参考書	ハンス・ペーター・リヒター『あゝころはフリードリヒがいた』(上田真而子訳、岩波少年文庫、ISBN978-4-00-114520-5)									
留意 点	なし									

科目名	教養演習 K (留学生のための日本語・上級) 【留学生のみ】		科目ナンバリング	L-GELS9-10. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	G50036		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	志喜屋 カロリーナ			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>レポートや論文などの論説文を読むのに必要な文法知識、構造に関する知識などを学ぶ。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達目標	各自の専門分野の論文を独力で読んでいくための基礎的読解力をつける。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	オリエンテーション			授業の進め方、教科書の構成について説明する。						
第2回	異文化適応			段落内の構造、書き言葉の特徴						
第3回	いじめ			話題とメインアイデア、助詞相当語						
第4回	衝動買いを誘導する			アウトライン、複文						
第5回	おいしい食感の理由			文章構成、指示表現						
第6回	日本人の意識－結婚と家庭に関する40年の変容－			論の展開①事実と筆者の考察、文の構造分析						
第7回	フリーター問題			論の方向を示す表現・論の構造、文末表現①						
第8回	安全でおいしい水をのむために			論の展開②、文末表現②						
第9回	「まじめ」という言葉			引用、接続表現と予測						
第10回	がん告知			要約、重要語句						
第11回	論文を読む①			全体構成・序論						
第12回	論文を読む②			本論その1						
第13回	論文を読む③			本論その2						
第14回	論文を読む④			結論						
第15回	論文の構成発表			総合演習 ※各自のテーマで論文構成発表						
授業方法(レポート、プレゼンテーション等)	発表、ポスター作成	誘導ディスカッション								
評価方法及び評価基準	授業への取り組み30%、発表70% (ルーブリック使用)									
課題等	最終授業で発表を行うので、それに向けて準備をしていく必要があります。									
事前事後学修	授業の前後に3時間程度の予習、復習が必要です。あらかじめ言葉の意味を調べたり、本文を読んでおいてください。									
教材教科書参考書	アカデミックジャパニーズ研究会(2018)『留学生の日本語③論文読解編』978-4757426337									
留意点	なし									

科目名	教養演習Ⅱ (留学生のための日本語・上級) 【留学生のみ】		科目ナンバリング	L-GELS9-11.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	G50037		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	志喜屋 カロリーナ			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>前期の授業で読んできた論文の体裁を参考に、自分のテーマで論文が書けるようになります。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達目標	<p>留学生が文章を書く時に特に間違いやすい点について、具体的な例を見ながら練習し、日本語の文章を書くための基本的な知識をしっかりと身に付けます。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修					備 考	
第1回	オリエンテーション・文体について			授業の進め方						
第2回	文の基本			自動詞や受け身を使った文、助詞の使い分け						
第3回	句読点の使い方			日本語の文章に使われる基本的な記号						
第4回	句読点以外の記号の使い方			句読点以外の各種の記号の使い方について学ぶ						
第5回	引用文			人の言葉や文章を、自分の話や文章の中に引いて示す						
第6回	段落			段落ごとの内容のまとめや段落どうしの論理的つながり						
第7回	仕組みの説明			読み手の立場に立った分かりやすい仕組みの説明の仕方について学ぶ						
第8回	歴史的な経過			歴史的経過を述べる文章の書き方を学ぶ						
第9回	分類			ある物や事柄について説明するとき、それが何に属するかという範疇を示すことによって、その基本的な性質を伝える						
第10回	定義			読み手に誤解を与えないように、その語について定義をする						
第11回	比較・対照			性質の近いものと比較することによって、その特徴がより明確に理解しやすくなる文章を書く						
第12回	因果関係			結果に至る一連のできごとを注意深く関係づけていく						
第13回	意見と根拠			読み手が納得できる論理的、客観的根拠を示す						
第14回	資料の利用			具体的な資料を示しながら説得力のある文章を書く						
第15回	レポートにおける引用			引用部分と自分の考えとを区別して書く						
授業方法(ゼミナール、グループワーク等)	発表、ポスター作成	誘導ディスカッション								
評価方法及び評価基準	授業への取り組み30%、課題70% (ルーブリック使用)									
課題等	授業の内容を活かし、最後にレポート課題を提出していただきます。									
事前事後学修	授業の前後に3時間程度の予習、復習が必要です。あらかじめ言葉の意味を調べたり、本文を読んでおいてください。									
教材教科書参考書	二通信子ほか(2020)『留学生のための論理的な文章の書き方』978-4883198429									
留意点	なし									

科目名	教養演習M		科目ナンバリング	L-GELS9-12.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	G50038		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	山本 尚樹			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】  「心」について科学的にアプローチするには、調査などを行う前にどのような理論や仮説が立てられ研究が行われてきたかを知っておく必要がある。この授業では心理学論文にアクセスし、読み解いていくと技術や態度を身につける。  【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】  ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達目標	<p>①心理学の論文の基本的な構成や、方法などについての知識を得る。  ②簡単な実験をデザイン、実施できる様にする。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			授業全体の進め方、留意点						
第2回	映像に現れる心（1）			心にどのようにアプローチすればよいのか、映像作品から考える。						
第3回	映像に現れる心（2）			心にどのようにアプローチすればよいのか、映像作品から考える。						
第4回	心理学論文に関する基礎知識			心理学論文が掲載されている雑誌やアクセス方法を紹介する。						
第5回	心理学論文を読む（1）			教員の解説のもと、選定された心理学の論文を読んでいく。					ディスカッション	
第6回	心理学論文を読む（2）			教員の解説のもと、選定された心理学の論文を読んでいく。					ディスカッション	
第7回	心理学の論文を調べる（1）			自らの関心に基づき心理学の論文を調べていく。					PBL	
第8回	心理学の論文を調べる（2）			自らの関心に基づき心理学の論文を調べていく。					PBL	
第9回	選んだ心理学の論文を読む（1）			各自が選んだ論文を教員指導のもと読んでいく。					ディスカッション	
第10回	選んだ心理学の論文を読む（2）			各自が選んだ論文を教員指導のもと読んでいく。					ディスカッション	
第11回	選んだ心理学の論文を読む（3）			各自が選んだ論文を教員指導のもと読んでいく。					ディスカッション	
第12回	研究の再検討（1）			可能な範囲で論文にかかれていた調査をアレンジして再調査してみる。					PBL	
第13回	研究の再検討（2）			可能な範囲で論文にかかれていた調査をアレンジして再調査してみる。					PBL	
第14回	論文内容の発表（1）			各自が呼んだ論文の内容や再調査をスライド資料にまとめ発表する。					発表	
第15回	論文内容の発表（2）			各自が呼んだ論文の内容や再調査をスライド資料にまとめ発表する。					発表	
授業方法(他 ディプロマ ポリシー等)	実習、フィールド ワーク	発表、ポスター作成	グループワーク	ディベート	PBL(問題解決型学 習)					
評価 方法 及び 評価 基準	平常点（授業の参加態度、課題への取り組み）40%、課題提出物60%									
課題 等	論文のリサーチや読解、グループワークなど、順次作業が生じる。授業内で指示するので確実にこなすこと。									
事前 事後 学修	事前の調査や課題は毎回の授業内で指示する。									
教材 教科書 参考書	必要な資料は適宜配布する。									
留意 点	教養演習Mは後期の教養演習Nと連続した内容になっているので、両方を受講することが望ましい。									

科目名	教養演習N		科目ナンバリング	L-GELS9-13.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	G50039		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	山本 尚樹			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 「心」について科学的にアプローチするには、先行研究を踏まえたうえで各自が問いを立て、研究を計画、実行しその結果が先行研究に対してどのような意味を持つのかを考える必要がある。この授業ではそうした科学的態度の基礎を体験してみる。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達目標	<p>①先行研究を読み解いたうえで問いを設定できるようにする。 ②自らが立てた問いをもとに研究を計画、実行できるようにする。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	ガイダンス		授業全体の進め方、留意点							
第2回	問いを立てる（1）		先行研究を踏まえたうえで研究の問いを立てる。					PBL		
第3回	問いを立てる（2）		先行研究を踏まえたうえで研究の問いを立てる。					PBL		
第4回	研究を計画する（1）		問いに対して、実行可能な範囲で研究を計画する。また、実行可能な調査を試行してみる。					PBL		
第5回	研究を計画する（2）		問いに対して、実行可能な範囲で研究を計画する。また、実行可能な調査を試行してみる。					PBL		
第6回	研究の実行（1）		計画に基づき調査などの研究を実行する。					PBL		
第7回	研究の実行（2）		計画に基づき調査などの研究を実行する。					PBL		
第8回	結果の分析と検証（1）		実行した研究の結果を分析し、研究計画の妥当性を検証する。					PBL		
第9回	結果の分析と検証（2）		実行した研究の結果を分析し、研究計画の妥当性を検証する。					PBL		
第10回	研究の再計画と実行（1）		研究計画を見直し、対象を広げる、方法を変えるなどして研究を行う。					PBL		
第11回	研究の再計画と実行（2）		研究計画を見直し、対象を広げる、方法を変えるなどして研究を行う。					PBL		
第12回	研究の再計画と実行（3）		研究計画を見直し、対象を広げる、方法を変えるなどして研究を行う。					PBL		
第13回	研究の再計画と実行（4）		研究計画を見直し、対象を広げる、方法を変えるなどして研究を行う。					PBL		
第14回	分析結果の発表（1）		研究の問い、方法、結果、考察をスライド資料にまとめ発表する。					発表		
第15回	分析結果の発表（2）		研究の問い、方法、結果、考察をスライド資料にまとめ発表する。					発表		
授業方法(ゼミナール、フィールドワーク等)	実習、フィールドワーク	グループワーク	発表、ポスター作成	PBL(問題解決型学習)						
評価方法及び評価基準	平常点（授業の参加態度、課題への取り組み）40%、課題提出物60%									
課題等	研究計画の立案、実行、分析など順次個人、グループでの作業が生じるので確実にこなすこと。									
事前事後学修	研究の準備、分析など授業前、授業後に作業が生じる。									
教材教科書参考書	必要な資料は適宜配布する。									
留意点	教養演習Mは後期の教養演習Nと連続した内容になっているので、両方を受講することが望ましい。									

科目名	教養演習Ⅰ (日本語教育概論A)		科目ナンバリング	L-GELS9-14. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	G50040		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	志喜屋 カロリーナ			授業 形態	演習	単独	
	日本語教員(26単位)	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>日本語を外国人に教える際に知っておくべき事柄について概観しつつ、本学で履修する専門分野の全体像を把握する。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語を体系的に教えるために必要な基礎的知識を身につける。</li> <li>日本語教育能力検定試験合格に向けた自分の得意分野の発見。</li> </ul>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	日本語教育概論Ⅰ			1. 日本語教師とは 2. 増加する日本語学習者(国内編)						
第2回	日本語教育概論Ⅱ			3. 増加する日本語学習者(海外編) 日本語教育実施国10か国の状況						
第3回	国際理解Ⅰ			【小テスト① 日本語教育概論】 1. 日本社会の成立と周辺各国との交流 2. 文化の種類						
第4回	国際理解Ⅱ			3. 多文化社会と教育						
第5回	国際理解Ⅲ			4. 「日本事情」では何を教えるか						
第6回	言語と社会Ⅰ			【小テスト② 国際理解】 1. 言語変異 2. 言語行動						
第7回	言語と社会Ⅱ			3. 言語接触 4. 言語変化 5. 言語計画						
第8回	言語と心理Ⅰ			【小テスト③: 言語と社会】1. 異文化接触と心理 2. 状況的学習論						
第9回	言語と心理Ⅱ			3. 認知心理学と学習 4. 学習ストラテジー 5. 学習者タイプ						
第10回	言語学概論Ⅰ			【小テスト④ 言語と心理】1. 一般言語学 2. 形態論 3. 統語論						
第11回	言語学概論Ⅱ			4. 意味論 5. 語用論						
第12回	世界の言語Ⅰ			【小テスト⑤ 言語学概論】 1. 起源別分類 2. 言語類型論						
第13回	世界の言語Ⅱ			3. 対照言語学(統語・テンス/アスペクト・語彙/表現)						
第14回	応用言語学Ⅰ			【小テスト⑥ 世界の言語】1. 第二言語習得における習慣形成と生得論 2. 言語能力について考え方の変遷						
第15回	応用言語学Ⅱ			3. モニターモデルと第二言語習得理論 4. バイリンガリズム						
授業方法(授業形式、アクティブラーニング等)	クイズ、小テスト	授業中のノート取り	資料記入							
評価方法及び評価基準	<p>時間にして15分程度の小テスト①～⑦の平均点を成績とする。</p> <p>公欠の場合を除き、小テストの受験は授業出席者のみとする。</p> <p>【小テスト⑦: 応用言語学】は、第16回目に該当する日付に実施する。</p>									
課題等	特になし									
事前事後学修	授業ごとに3時間程度の復習を想定している。									
教材教科書参考書	プリントを用意する。									
留意点	配布プリントは全てTeams上で配布します。小テスト実施後、問題及び回答用紙は回収します。日本語教師にならない人も歓迎します。									

科目名	教養演習P (日本語教育概論B)		科目ナンバリング	L-GELS9-15.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	G50041		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	志喜屋 カロリーナ				授業 形態	講義	単独
	日本語教員(26単位)	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>日本語を外国人に教える際に知っておくべき事柄について概観しつつ、本学で履修する専門分野の全体像を把握する。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語を体系的に教えるために必要な基礎的知識を身につける。</li> <li>日本語教育能力検定試験合格に向けた自分の得意分野の発見。</li> </ul>									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修						備考
第1回	語彙・意味			1. 語彙論 2. 語種 3. 待遇語 4. 語構成 5. 擬音語・擬態語 6. 意味論						
第2回	文字・表記			1. 日本語の表記法 2. 漢字・平仮名・カタカナ・ローマ字						
第3回	音声Ⅰ			【小テスト⑧ 語彙意味・文字表記】1. 音声概論 IPA国際音声記号による五十音図 2. 単音—子音—						
第4回	音声Ⅱ			3. 調音点 4. 調音法						
第5回	音声Ⅲ			5. 単音—母音— 6. 音素と異音						
第6回	音声Ⅳ			7. 音韻レベル 8. アクセント・イントネーション・プロミネンス						
第7回	文法(品詞)Ⅰ			【小テスト⑨ 音声】1. 品詞論と構文論 2. 名詞 3. 動詞						
第8回	文法(品詞)Ⅱ			3. 動詞						
第9回	文法(品詞)Ⅲ			4. 形容詞 5. 副詞 6. 連体詞 7. 接続詞 8. 感動詞						
第10回	文法(品詞)Ⅳ			9. 助詞						
第11回	文法(構文)Ⅰ			【小テスト⑩ 品詞】1. 文の種類						
第12回	文法(構文)Ⅱ			2. ヴォイス(態) 3. アスペクト(相)						
第13回	文法(構文)Ⅲ			4. テンス(時制) 5. ムード(モダリティ・法・陳述) 6. 授受表現						
第14回	文法(構文)Ⅳ			7. 連体修飾節 8. 従属節						
第15回	文法(構文)Ⅴ			前回の続き→条件形 9. 格助詞						
授業方法(予 定・77%) ア・ラ・コ 等)	クイズ、小テスト	授業中のノート取り	資料記入							
評価 方法 及び 評価 基準	<p>時間にして15分程度の小テスト⑧～⑩の平均点を成績とする。</p> <p>公欠の場合を除き、小テストの受験は授業出席者のみとする。</p> <p>【小テスト⑩：構文論】は、第16回目に該当する日付に実施する。</p>									
課題 等	特になし									
事前 事後 学修	小テストを行うため、復習を要する。									
教材 教科書 参考書	プリントを用意する。									
留意 点	配布プリントは全てTeams上で配布します。小テスト実施後、問題及び回答用紙は回収します。日本語教師にならない人も歓迎します。									

科目名	教養演習Q		科目ナンバリング	L-GELS9-16.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期集中
			科目コード	G50042		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	(コンソーシアム)			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>本授業は、大学コンソーシアム学都ひろさきの「共通授業」として開講されるもので、弘前市内の大学生が集まり、自分たちの住む地域の様々な課題を学び、課題解決に向けて話し合う。予定されている大きなテーマは次の3つ。</p> <p>①地域社会の健康課題を学ぶ～生活習慣病と腎臓～、②子どもにとっての「遊び」の環境と地域子育て支援拠点の重要性、③地域共生社会と福祉的課題について</p> <p>授業では、1日1課題（テーマ）について担当教員、弘前市職員、民間企業社員から、地域の様々な課題についてオムニバス形式で授業を実施し、その解決策についてのグループディスカッション、グループワーク等を行い発表する。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達目標	<p>① 地域の状況を具体的に理解できるようになる</p> <p>② 地域の課題解決のために、学生ができることは何かを考えることができるようになる</p> <p>③ 各テーマに対して、自分の考えを述べることができるようになる</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	地域社会の健康課題を学ぶ～生活習慣病と腎臓～①			生活習慣病総論・各論						
第2回	地域社会の健康課題を学ぶ～生活習慣病と腎臓～②			生活習慣病と慢性腎臓病						
第3回	地域社会の健康課題を学ぶ～生活習慣病と腎臓～③			生活習慣病から超高齢社会を考える：健康寿命を伸ばすためにできること						
第4回	地域社会の健康課題を学ぶ～生活習慣病と腎臓～④			生活習慣病の治療支援						
第5回	地域社会の健康課題を学ぶ～生活習慣病と腎臓～⑤			学校教育からの生活習慣病対策						
第6回	子どもにとっての「遊び」の環境と地域子育て支援拠点の重要性①			子どもを取り巻く環境の変化と子育て支						
第7回	子どもにとっての「遊び」の環境と地域子育て支援拠点の重要性②			弘前市駅前子どもの広場と弘前市子ども家庭センターの取組み						
第8回	子どもにとっての「遊び」の環境と地域子育て支援拠点の重要性③			子どもにとっての「遊び」、木との関わりを通して育まれるもの						
第9回	子どもにとっての「遊び」の環境と地域子育て支援拠点の重要性④			フィールドワーク、グループワーク、ポスター作成						
第10回	子どもにとっての「遊び」の環境と地域子育て支援拠点の重要性⑤			発表、講評						
第11回	地域共生社会と福祉的課題①			地域共生社会の実現とは						
第12回	地域共生社会と福祉的課題②			福祉的課題を抱え生活する人						
第13回	地域共生社会と福祉的課題③			地域共生社会の事例						
第14回	地域共生社会と福祉的課題④			グループディスカッション						
第15回	地域共生社会と福祉的課題⑤			発表、質疑						
授業方法(レポート、グループワーク等)	グループワーク	PBL(問題解決型学習)	発表、ポスター作成							
評価方法及び評価基準	期末評価（最終レポート）：100%									
課題等	各日に課せられる課題と最終レポート									
事前事後学修	各テーマに関連するサイトや文献を事前に学習すること。また授業中に案内するサイトや文献による事後の学習を行うこと。準備学習時間の目安：1日あたり30分以上。									
教材教科書参考書	特に指定しない。必要に応じて資料などを配布する。									
留意点	普段から「広報ひろさき」などにも目を通し、地域においてどのようなことが行われているのか、関心を持つようにすること。授業内容が変更になる可能性があるため変更があった場合は適宜連絡を行う。									